

極秘

第二次生産力擴充計畫要綱案ニ關スル意見

一七五一 兵 備 局

第一方針ヲ別紙ノ通修正スルモノトス

五

第一 方針

一 大東亞戰爭ノ完遂ヲ期シ不拔ノ戦力ヲ充實培養スルト共ニ皇國ヲ中心トスル大東亞共榮圈ノ確立ヲ期スル爲日滿支及南方諸地域ヲ包括スル第二次生産力擴充計畫ヲ樹立シ以テ重要國防資源ノ綜合的開發及之ニ依ル自給生産力ノ飛躍的增強ヲ圖ルモノトス

二 本計畫ハ別ニ定ムル大東亞經濟建設ノ長期計畫ト併行的ニ實施スルモノトシ自昭和十七年度至同二十一年度五ケ年ヲ一期トシテ差當リ戰爭ノ遂行ノ爲最犬最高度ノ戦力發揮ヲ主眼トシ所要重要國防資源ノ應急的開發、國防生産力ノ急速增強ヲ圖ルモ情勢ノ進展ニ即應シ逐次大東亞經濟建設ノ長期計畫ニ移行ス

三 本計畫左記各號ノ基本的考慮ノ下ニ其ノ完遂ヲ期スルモノトス  
(一) 産業別の考慮

(1) 時局ノ要請及第一次生産力擴充計畫ノ實績ニ鑑ミ本計畫ニ於テハ各産業系別並同一産業系内ニ於ケル徹底的重点主義ヲ採リ船舶。

天然石油、鐵鋼、石炭、電力及特別不足金屬資源ノ生産擴充ヲ最優先的ニ考慮スルト共ニ其他ノ基本的國防産業タル金以外ノ金屬、石綿、人造石油、自動車、重要機械、硝酸、ソーダ、棉花ニ付速ニ之ガ生産力ノ擴充ヲ期ス

(ロ) 爾余ノ計畫産業ニ在リテハ概ネ現状程度ノ設備ニ止メ極力其ノ能力發揮ニ依リ生産ノ增強ヲ圖ル

(ハ) 本計畫ハ前各號ノ如ク緩急ヲ附スルモ各産業間ノ有機的相關性ヲ考慮シ可及的の彈性性及融通性ヲ持セシメ以テ綜合的の均衡ヲ圖ルト共ニ可及的の擴充ノ早期ヨリ生産ヲ舉グル如クシ設備施設ノ未稼働度ヲ小ナラシメ生産力擴充ノ實効發揚ヲ期スルモノトス

### (二) 地域の考慮

(イ) 日滿支及南方諸地域ヲ包含スル域内ニ於ケル自給自足的の國防生産力ノ最高能力發揮及急速增強ヲ圖ルヲ主眼トス

(ロ) 右達成上南方諸地域ニ對シテハ戰爭遂行ニ必要ナル重要國防資源

ノ供給ヲ目途トシ急速開發及輸送ニ全力ヲ注グト共ニ將來大東亞經濟建設計畫ニ對スル確固不拔ノ産業基礎建設トシテ之ニ移行シ得ル如ク考慮措置スルモノトス

(ハ) 南方諸地域ヨリノ取得物資ニ對シ之ガ處理設備ノ整備擴充ニ萬遺憾ナキヲ期スルト共ニ南方過剩資源ノ活用ニ付極力有効適切ナル方途ヲ講ジ以テ生産力增強ノ完遂ニ資スルモノトス

### (三) 産業立地の考慮

本計畫ニ於ケル産業立地ハ所與立地條件ノ將來ニ於ケル現度ヲ勘考シ國防生産力ノ急速增強及最高度能率發揮ヲ爲シ得ル如ク日滿支ニ關シテハ概ネ日滿支經濟建設要綱ノ産業配分ニ則リ南方諸地域ニ關シテハ差當リ重要國防資源ニ付急速開發及既存生産力ノ應急復舊利用ヲ重視シ之ヲ定ムルモ特ニ海上輸送力及生産設備施設ノ急速稼働ヲ考慮シ之ヲ決定スルモノトス

理由

抑モ今次聖戰ノ目的タルヤ南方諸地域ヲ包含スル大東亞共榮圈ヲ確立  
自給自足の國防生産力ノ確保ヲ圖ラントスルニアリ即チ共榮圈全体ヲ  
一單位トシテ其ノ生産力ノ全的發揮ヲ考慮セザルベカラズ  
↳ 南方諸地域ハ日滿支ニ於テ所期シ得ザル重要國防資源ヲ包藏シ、活  
要其ノ他ノ關係上滿支ニ於ルヨリ開發容易ニシテ且之ガ所要資材ノ  
僅小ナルベキヲ豫期セラルルモノ少ナカラズ、即チ原料給源タル重  
要度ハ生産力増強ノ觀點ヨリスレバ生産施設ノ擴充ノ重要度ニ劣ラ  
ザルベシ、南方諸地域ノ確固タル建設ナクシテ原案第一項ノ如キ構  
想成ルモノニアラス  
而シテ向後五ヶ年ヲ一期トスル計畫ニ於テ應急的弱後ノ如キ低級ナ  
ル理念ニ發スルガ如キハ既ニ其ノ力點ヲ失セルモノト謂ハザルベカ  
ラス、~~檢定~~檢定セバ計畫ノ當初ヨリ本理念ヲ明確ニシ以テ擴充用資材ノ  
配當ノ如キハ從來ノ動ニトモスレバ日滿支生産力擴充ニ限局セラレ  
タルヲ一擲シ大東亞全局ニ於テ最高能率的ニ邁進スルヲ要スル旨強

調ノ要アリ

□ 天然石油ヲ最優先的ニ考慮スベキハ大東亞戰爭ノ目的及需給現状ヨ  
リ見テ當然ナリト認ム

二 第二要領第一項表中生産目標及年次別生産豫定額ハ本年度生産擴充  
實施計畫ヲ基礎トシ全面的ニ修正ヲ要ス

三 一應第二要領第一項表中左記ノ通修正スルヲ要ス

(一) 船舶ノ欄ハ五〇〇〇噸以上船舶ヲ計上スルモノトシ上ヨリ、

「五ヶ年」四七三〇 五三〇〇 七五〇〇 九五〇〇 一、一、〇〇〇

ト改訂スルヲ可ト認ム

尙右ノ外五〇〇〇噸以下ノ木造船ニ付年一〇萬噸乃至二〇萬噸ノ増強

可能ノ見込アリ

理由

五〇〇噸以上ノ船舶ニ付右船腹ノ増強可能ナリト認ムルト共ニ戰  
争遂行上ニ於テモ必要ナルニ付本數量ヲ掲記スルヲ適當ト認ム

(二) 「アルミニウム」ノ欄ハ

(1) 「高級アルミニウム」及「低級アルミニウム」ノ二項目ニ分子專  
ラ「高級アルミニウム」ノ増産ヲ圖ルヲ要ス

(3) 「高級アルミニウム」ノ生産量ヲ上ヨリ「ニッケル」ノ生産量

「一、〇〇〇、〇〇〇」トスルコト

(3) 石綿備考欄「五級以上」ヲ「三B以上」トスルコト

(4) 天然石油ノ欄南方ノ項ハ上ヨリ

「(一、〇〇〇)」「(一、五〇〇)」「(二、〇〇〇)」「(二、五〇〇)」「(三、〇〇〇)」

トスルコト

四 第二要領第一項表及第二項産業別實施要領中ニ「マンガング石」及「特

殊鋼」ヲ加フルコトトシ之ガ生産増強及所要量確保ヲ確實ニスルヲ要ス

五 産業別實施要領中(二)船舶ノ項ハ次ノ如ク改訂ヲ要ス

(1) 時局下生産擴充ノ絶對隘路タル船舶ノ建造ガ刻下喫緊ノ要務ナルニ鑑

ミ造船及造機等ノ設備ノ急速擴充ヲ行フト共ニ船型ノ標準化、同一造

船所ニ於ケル同型船ノ専門建造、所要資材及備品ノ規格統一等ノ方法

ニ依リ造船能率ノ向上ヲ圖リ萬難ヲ排シテ其ノ劃期的増産ヲ期スルモ

ノトス

之ガ爲必要ナル勞務者ノ増加充實及所要資材ノ供給確保ニ付テハ特別

ノ措置ヲ講ジ之ガ實現ニ遺憾ナカラシムルモノトス



(ロ) 占領地域ニ於ル造船設備ハ速ニ整備擴充ヲ圖リ新造又ハ修理用トシテ全幅之ガ活用ノ方途ヲ講ズルト共ニ沈没船引揚作業ノ促進ヲ圖リ之ヲ出來得ル限り現地造船所ニ於テ修理スルモノトス

(ハ) 小型船舶及木造船ニ付テハ造船能力及資材ノ許ス限り多量建造ニ努メ極力般鋼鐵船船腹増強ニ對スル缺ヲ補フ如ク努ムルモノトス

六 産業別實施要領中(四)輕金屬ノ項中

- (一) イ項ノ「飛躍的増産」ナル字句ニ對シロ項以下記述スル所弱キニ過グルノ嫌アリ
- (二) イ項ノ「マグネシウムノ飛躍的増産」ニ付テハ表現ヲ稍緩和スルヲ適當トスベシ
- 七 第三措置中「之ガ實現ヲ期スベク之カ爲」ノ次ニ「生産力擴充遂行ニ適切ナル具體方策ヲ速ニ樹立以テ」ヲ「技術者及勞務者ノ供給、輸送」ノ次ニ「港灣及荷役施設ノ整備改善乃至擴充」ヲ加フルコト

調査室資料第三十四號

昭和十七年五月



大東亞産業建設目標關係資料

總務局調査課



大東亞産業建設目標關係資料  
第一、檢討ノ出發點

本資料ニ於テハ今後五箇年ヲ第一期トシテ鋼材一〇〇〇〇千噸ノ需要充足可能ナル國民經濟建設ヲ目途トシ鋼材ヲベシストシテ其ノ他ノ重要物資需要ガ如何ナル數量ニ在ルコトガ最モ均衡ヲ得タル國民經濟ナルガヲ各國ノ實績比率ニ徴シ系數的ニ算定シ之ヲ現實ノ大東亞共榮圈內ニ於ケル生産狀況等ト睨合セ當該目標達成ノ爲ノ生産條件（例之、資材、輸送、勞力、電力等）ニ付若干ヲ檢討ヲ試ミタリ

而シテ第一期目標鋼材一〇〇〇〇千噸ト爲シタル所以ノモノハ爾今十箇年乃至十五箇年ヲ以テ

鐵 鋼 三千萬噸  
アルミニウム 六十萬噸  
石 油 二千萬噸

船 舶 二千萬噸（外ニタンカ一二百萬噸）

ナル第二期目標（大本營昭一セニニ）ヲ達成スル爲ニハ當該期間ニ於テ鋼材一〇〇〇〇千噸確保ヲ絕對的前提條件ナリト認メタレバナリ



第二 鋼材一〇〇〇千噸ベシスノ各重要物資需要量ノ檢討

先ツ鋼材ヲベシストセル獨國過去四箇年（一九三五―三八）平均ノ實績比率ヲ基準トシテ鋼材一〇〇〇千噸ノ場合ノ各重要物資ノ具體的需要量ヲ算定シ之ニ關シ明カニ大東亞共榮圈內資源賦存狀況等ヨリシテ妥當ナラズト思料セラルルモノ若干ニ付別途日米等ノ比率ヲ斟酌シテ適當ナル修正ヲ加ヘ之トハ關係ナク統制會ヨリ一應提出セラレタル計畫案及第二次五箇年計畫案等ヲ比較參照ノ上最後ニ省内ニ於テ資材、輸送、勞力、電力等ノ生産條件ニ付檢討ヲ行フ際ノ基準タルベキ各物資需要量ノ目標ヲ一應採擇決定セリ

一、鋼材ニ就テ

事 項	目標（千噸）	備 考
1 標準	一〇〇〇〇	想定ノ基礎
2 生産實績	五〇〇一	
3 統制會計畫案	九七一三	鐵鋼統制會
4 第二次五箇年計畫案	九〇〇〇	
5 省内檢討基準	九七一三	

（註）

- (1) 標準トハ各國實績等ヨリ算出セル標準ヲ謂フ
- (2) 生産實績トハ大東亞共榮圈內最近ノ生産實績ヲ謂フ
- (3) 統制會計畫案トハ統制會提出ニ係ル暫定計畫案ヲ謂フ
- (4) 第二次五箇年計畫案トハ第二次五箇年計畫案院案ヲ謂フ
- (5) 省内檢討基準トハ省内檢討ノ基準トシテ採擇決定セルモノヲ謂フ

（説明）

十五箇年三〇〇〇千噸計畫達成ノ爲第一期五箇年計畫一〇〇〇千噸確保ハ絕對的要件ニシテ之ヲ本想定ノ基礎トセリ而シテ鐵鋼統制會モ之ト殆ト同歩調ニテ實施可能ナルコトヲ認メタリ

ニ マンガンニ就テ

事項	目標 (千噸)	備考
1、標準	(鑽石) 八四〇	(日) 一九四〇基準
2、生産実績	二六〇	
3、統制會計書案	(鑽石) 六八〇	鐵鋼統制會
4、第二次五箇年計畫案		
5、省内檢討基準	六八〇	

(説明)

マンガンハ製鐵法、鑽石、需要製品ノ相異等ニ依リ過去ニ於ケル各國比率ニ依ルコトハ不可  
日一九四〇年ノ比率ヲ基準トシタル數量ト鐵鋼統制會ノ夫レトハ  
大体近似ナルヲ認ム

三 銅ニ就テ

事項	目標 (千噸)	備考
1、標準	(金屬) 一〇六五〇	(獨) 四箇年平均基準 (米) 一九三八基準
2、生産実績	八六	
3、統制會計書案	一一三	鐵山統制會
4、第二次五箇年計畫案	一〇八	
5、省内檢討基準	二〇五	二〇五千噸ハ理想數字ナレドモ現實 ニハ一三三三千噸以上ノ生産計畫ハ不 可能

(説明)

從來迄ノ日本ニ於ケル銅需要比率ハ世界最高位ニシテ米ノ一・五倍  
ニ達シ居ル處獨ノ比率ニ依レバ其ノ半數ニ達セズ各國資源ノ賦存  
狀況、工業技術ノ狀況等ニ比例シテ其ノ需要比率モ區々ナルヲ以  
テ一應米ノ最近ノ比率ヲ標準トスルモ現實ノ生産計畫ハ統制會提  
出ノモノ以上ハ不可能ニシテ當該物資ニ付テハ所要ノ補填對策ヲ  
併セ請究スル要アリ





四 鉛ニ就テ

事項	目標 (千匁)	備考
1. 標準	(金屬) 一七四七	(獨米) 四箇年平均基準 一九三八基準
2. 生産実績	一一二	嶺山統制會
3. 統制會計畫案	一七三	
4. 第二次五箇年計畫案	一四二	
5. 省内檢討基準	一七三	

(説明)

米最近ノ需要比率ト統制會ノ計畫數字トハ略一致シ獨四箇年平均基準ニ依ルモノト企畫院計畫數字トハ略一致ス

五 亜鉛ニ就テ

事項	目標 (千匁)	備考
1. 標準	(金屬) 一四七	(獨米) 四箇年平均ヲ基準 一九三八基準
2. 生産実績	一七八	嶺山統制會
3. 統制會計畫案	一九五	
4. 第二次五箇年計畫案	一五三	
5. 省内檢討基準	一九五	

(説明)

米最近ノ需要比率ト統制會計畫數字トハ近似シ獨四箇年平均基準ニ依ルモノト企畫院計畫數字トハ近似シ居レリ



六、錫ニ就テ

事	項	目 標 (千 噸)	備 考
1、標 準 2、生 産 實 績 3、統 制 會 計 電 案 4、第 二 次 五 箇 年 計 畫 案 5、省 内 檢 討 基 準		(金屬) 二 八 九 五 六 七 四 二 二 五	(獨) 四箇年平均基準 (米) 一九三八基準 鑛山統制會

【説 明】

統制會及企畫院計畫數字ハ共ニ標準數字ヨリ遙ク大ナルハ生産過剩ナル實情ニ照シタル生産予定數字ニテ計畫數字ニハ非ザルガリ  
獨四箇年平均基準ニ依リタルモノ過小ナルハ當該國ガ當該資源ニ惠マレ居ラザルニ由ルザラン從テ茲ニハ米最近ノ需要比率ニ依ル數字ヲ基準トシテ採擇スルヲ妥當ト思料ス

七、アルミニウムニ就テ

事	項	目 標 (千 噸)	備 考
1、標 準 2、生 産 實 績 3、統 制 會 計 電 案 4、第 二 次 五 箇 年 計 畫 案 5、省 内 檢 討 基 準		三 〇 〇 七 〇 三 〇 〇 三 〇 〇 五 〇 〇	國防上ノ要請ヨリ逆算 之ヲ關聯シテマグネシウム五〇千噸ヲ計畫ス

【説 明】

アルミニウム需要三〇〇千噸ハ年産二五〇〇〇台ノ飛行機生産ヲ想定セルモノニシテ此ノ飛行機生産ハ五年後ノ我が國防上不可缺ナルコトノ前提ニ立脚ス之ハ企畫院第二次五箇年計畫案ト全ク一致スルニ帝國輕金屬會社當局ニ於テハ五〇〇千噸ノ成算アルト爲スヲ以テ之ヲ採擇ス



八、アムニウム一應ニ付五應ノボイトニ就テ

事項	目標 (千應)	備考
1. 標 準	一五〇〇	アムニウム一應ニ付五應ノボイトニ就テ
2. 生 産 實 績	三三四	
3. 統 制 會 計 彙 案		
4. 第 一 次 五 箇 年 計 彙 案		
5. 省 内 檢 討 基 準	二五〇〇	

(説明)

アムニウム一應ニ付五應ノ割合ニ依リ機械的ニ算出ス

九、原油ニ就テ

事項	目標 (千坪)	備考
1. 標 準	一三三六〇〇〇	飛行機、船舶等ノ保有數ヨリ想定
2. 生 産 實 績	一五三二七〇七	
3. 統 制 會 計 彙 案	一三三〇〇一九〇〇	
4. 第 一 次 五 箇 年 計 彙 案	九三七八〇八〇〇	
5. 省 内 檢 討 基 準	一三三〇〇二七〇〇〇	

(説明)

日本ニ於ケル現在迄ノ需要ハ相當量ノ戰時貯藏ヲ豫定シアル爲一應現在

ノ實需數量ヲ四〇〇千噸ト抑ヘレバ五箇年後ニ於テハアルミヨウム需  
要ヨリ想定セル飛行機ガ現在ノ約三倍、船舶約二倍等ノ狀況ヨリ之ニ準  
ジタル考ヘ方ヲスレバ石油需要モ約一三〇〇〇千噸程度トナリ燃料局提  
出ニ依ル計畫數字ト畧一致ス

一〇 石炭ニ就テ

事項	自標 (千噸)	備考
1 標準	一二八五九八	(米) 四箇年平均基準
2 生産実績	一一六二八九	
3 統制會計圖案	一九六五〇〇	
4 第二次五箇年計圖案	一九〇〇〇〇	
5 省内檢討基準	一九一五〇〇	

(説明) 米ヲ標準トシテ選ビタルモ石油消費ノ過大ナル特殊性ニ鑑ミル  
モ我國ノ場合ハ右數字ニテハ過小ニ失スル惧ナシトセス又製鐵用石炭  
ハ昭和十四、十五年ノ実績ニ徴スレバ石炭全需要ノ一八%ナルヲ以テ  
鐵鋼統制會資料ニ依レバ製鐵用石炭需要ハ約三三、〇〇〇千噸ナリ從  
テ石炭全需要一四〇、〇〇〇千噸トナルノ右ハ製鐵用炭以外ノ需要ヲ  
極度ニ抑壓セルモノニシテ且滿支ノ對日期待量(現地重工業向ノミヲ  
包含ス)ニシテ一般地場消費炭ヲ含マザルヲ以テ各數字共略々一致シ  
アルニ付茲ニハ統制會提出ノ數字ヲ採擇セリ

第三、各重要物資需要ノ基準目標達成ノ爲考慮セラルベキ生産諸條件ニ對スル檢討

一 統制會提出資料總括ニ就テ  
先ツ各統制會（アルミニウム等ハ帝國輕金屬）ヲシテ曩ニ採擇決定ヲ見タル各重要物資需要ノ基準目標達成ノ爲考慮セラルベキ生産諸條件ニ關スル資料ヲ提出セシメタリ  
右資料ヲ總括スレバ概ネ左ノ如シ

物 資	生産計畫 (千噸)	所 要 資 材		要輸送量 (千噸)	所要勞力 (千人)	所要電力 (百万KWH)
		鋼材(千噸)	銅材(千噸)			
鐵 材	九七一三	八四二	一、五〇〇	三六、〇〇〇	五〇、六	六、〇〇〇
マンガン 鑛石	六九四	二	〇〇一、六	三、九四	一一	一、六
銅	一、二二三	不	明	八、一六	九、七	二、〇〇〇
鉛	一、七三	不	明	一、七三	三、四	九、五〇
亞 鉛	一九五	木	明	三、二	三、四	九、五〇
錫	二、五	不	明	二、七	三、二	三、三
アルミニウム (生産量若干ヲ含ム)	四四、五 (第六年度 五〇〇千噸)	八、八	一、五	六、〇〇〇	五、二	一、一〇一、五
ボーキサイト	一、七五〇	六	〇、一	一、七五〇	一、〇	明
マグネシウム	五〇	一、七	一、二	明	三	三、〇〇〇
石 炭	一九、五〇〇	七、四一	一、九	一、〇〇一、九一	一、五九二	五、五四一
計	一	一、四〇〇	二、九七、一六	一〇、五八、二二	二、三三、七	二、九、九八、四

三、既提出資料ニ表ハレタル年次別物資パランスニ就テ  
 各統制會ヨリ提出セラレタル資料ハ提示セラレタル基準目標達成ノ爲  
 必要ナル生産諸條件ニ付各統制會相互間ニハ殆下無連絡ノ儘年次別資  
 料ノ提出ヲ見タル爲年次別積ノパランスヲ示セバ左ノ如シ之ニ依レバ  
 銅ガ各年度ヲ通ジ不足ヲ告ゲ居リ終始不均衡ナルト雖、アルミニウム  
 ノ開發速度ガ多少問題トナル外殆下均等ヲ保チ居ルモノノ如シ

一、銅材「〇〇トン」見タル各物資年次別パランス表  
 調査室(昭一七)五(一一)

物資年次	第一年度	第二年度	第三年度	第四年度	第五年度
銅材	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
マンガン鐵石	六八	六九	七〇	七〇	六九
銅	一・一	一・三	一・三	一・四	一・二
鉛	〇・九	一・二	一・四	一・七	一・七
亞鉛	一・五	一・七	一・九	二・一	一・九
錫	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・一
アルミニウム	二・二	二・四	二・八	四・〇	四・四
ホーキヤイト	八五	九一	一・一四	一・六七	一・七五
マジネシウム	〇・二	〇・三	〇・三	〇・四	〇・三
石炭	二・一〇〇 (三〇〇・六)	二・一〇〇 (三二五・四)	二・一〇〇 (三二七・三)	二・一〇〇 (三二五・二)	一・九〇〇 (三二九・四)
鑛鑛用	三〇〇・六	三二五・四	三二七・三	三二五・二	三二九・四



三、鋼材生産量ト所要量トノ關係ニ就テ  
鋼材所要量ハ當該計畫物資關係ニテ二〇〇〇千噸及船舶關係ニテ一〇〇〇千噸、計三〇〇〇千噸ニシテ之ヲ以テ鋼材全需要量ノ約三割ヲ占メ居ル狀況ニ徴スレバ鋼材所要量ハ大体其ノ生産ノ枠内ニ入ルモノト  
思料セラル

四、鋼材生産量ト所要量トノ關係ニ就テ

當該計畫物資關係鋼材所要量ハ全所要量中左程重要ナル地位ヲ占メ居ラズ、寧ろ全需要量ニ對シ電纜六割、伸銅二割五分、鑄物合金一割五分ヲ占メ居ル狀況ニ想到スレバ當該計畫關係消費ト重複ノ分ヲ多少考慮ニ入ルルモ鋼材ハ絕對的不足タルヲ免レズ

五、要輸送量ニ就テ

- 1 鋼材關係要輸送量ガ全産業部門ノ約二五%ニ當リ回航率一（毎月）ヨリ逆算スレバ要輸送量ハ船舶保有量ニ換算シテ約七三〇〇千噸トナル
- 2 石炭、製鐵關係要輸送量ガ全産業部門ノ約二分ノ一ニ當ルコトヨリ逆算スレバ要輸送總量ハ船舶保有量ニ換算シテ約七六〇〇千噸トナル
- 3 此ノ外二年一八〇千噸程度ノ消耗、回航率ノ低下、喪失、徵用等ヲ考慮ニ入ルトセバ船舶保有目標ハ第一期末約一〇〇〇〇

千噸ト置クヲ妥當ナリトス

4 油槽船ニ付テハ別途考究ノ豫定

六 所要勞力ニ就テ

本計畫ニ基ク所要勞力ノ增加率ハ第一期間ニ平均約四割ナルコトヨリ逆算スレバ當該最終年度ニ於テハ現狀ニ比シ他部門ニ於ケル就業人口ハ現狀ノ儘ト假定スルモ鑛業ニ六〇千人、工業一八〇千人、交通業五三〇千人、計三九七〇千人ノ増加ガ豫想セララル  
因ニ我國鑛業關係就業人口ハ現在約六四〇千人、工業關係七九四〇千人、交通關係一三二〇千人、計九九〇〇千人ナリ

七 電力所要量ニ就テ

地域の配分ガ明瞭ナラザル限り具体的検討不可能ナルモ大体鑛業關係電力所要量ガ全所要量ノ約三四%ヲ占メ居ル狀況(昭和十五、六年度)ヨリ逆算スレバ第一期末ノ電力總所要量ハ設備(一、 $10^4$ kw)ニテ凡ソ現在ノ三倍弱トナリ同様ノ方法ニテアル $10^4$ kwニウム工業關係電力所要量(全所要量ノ約八一〇%)ヨリ推定スレバ現在ノ約二倍半トナル

因ニ大東亞共榮圈内ニ於ケル電力現有設備ハ總計約一、 $10^4$ kwト推定セララル

八 當該計畫第一年度ト現實ノ第二次五箇年計畫昭和十七年度トノ關係ニ就テ

兩者ヲ系數的ニ比較對照セズ左ノ如シ  
而シテ第一期內ニ當該目標ヲ達成セシムル爲ニハ現實ノ昭和十七年度ヲ當該計畫第一年度目標ニ迄引上グルコト絕對ニ必要ナリト思料セララル



若シ第一年度ニ於テ之ガ不可能ナレバ次年度以降ニ於テ可及的速ニ前者ノ當該年度計畫ニ追付カシムルヲ要アリ

備考  
技術員ノ問題ニ付テハ目下検討中

物	資	項	單位	大東亞産業建設計畫(案)	第ニ次生産力拡充計畫(案)	過不足	備考
鋼	鐵	材	十噸	六四八九	五五三〇	九五九	
銅				八五四	八五〇	〇四	
鉛				五九〇	五九〇		
鋅				九四三	九三五	〇八	
錫				一六五	一六五		
錳				一四五〇	一三八〇	七〇	
アルミニウム				五五〇			
ホーキサイト							
マグネシウム				一一三	六五	四八	
石炭				一三八七〇	一三三〇〇	六七〇〇	

大東亞産業建設計畫及第ニ次生産力拡充計畫各第一年度ノ比較

調査室(昭一七・五・一三)

極秘

昭和十七年六月八日

大東亞鐵業建設方策私案

大東亞建設審議會

委員 男爵 伊藤 文吉

E.O.O.P.S-3-1

大東亞鐵業建設方策私案

一 鐵業建設ノ順位

(1) 大東亞戰爭遂行力ノ確保並ニ大東亞共榮圈ノ國防經濟力増強ノ爲メ必要ナル重要鐵產物ノ生産ニ重點ヲ置クヲ要ス

(2) 重要鐵產物ノ生産並ニ重要鐵產資源ノ開發ニ付キテハ鐵種別ニ先後ノ順位ヲ付スルコトヲ得ズ。相共ニ併行シテ行ハルベキモノナリ。然レドモ今後ノ生産目標ニ對シ既知ノ資源ノミヲ以テシテハ生産量ノ不足ヲ豫想セラルル鐵產物ニ對シテハ特ニ重點ヲ置キ十分ナル工夫ヲ施シ目標達成ヲ可能ナラシムベキ根本的ナル對策ヲ樹立スルヲ要ス

不足ヲ豫想セラルル金屬鐵ノ種類ハ多クアルモ之等一々ニ付キ記述スルコトハ煩雜ナルヲ以テ、茲ニハ之等各種鐵產物中生産量ノ大ナルモノ即チ銅、鋅、亜鉛、ニッケル等ヲ例示スルニ止ム

(イ) 又重要鑛產物中今後ノ生産目標ニ對シ豊富ナル資源ヲ有スルモノ例ヘバ錫ノ如キ鑛產物、或ハ金ノ如ク特殊ノ立場ニアルモノニ付キテハ、其ノ大東亞共榮圈内ノ經濟ニ及ボスベキ重要性並ニ將來ノ世界經濟上ニ占ムルキ地位ヲ考慮シ夫々特異ノ對策ヲ確立スルコトヲ要ス

(ニ) 大東亞共榮圈各地域ノ既開發鑛山ノ増産、殊ニ本邦ニ於ケル各鑛山ノ増産ニ先ヅ主力ヲ傾注スルコト必要ナルモノ之ト同時ニ南方諸地域ノ未開發鑛產資源ノ調査、殊ニ不足ヲ豫想セラルベキ鑛產物ノ資源ノ探求ヲ急速有效ニ實施スルコト肝要ナリ

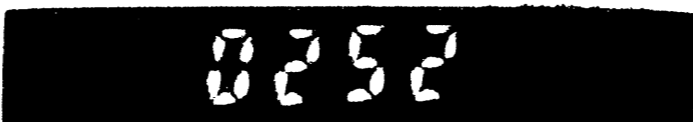
(ホ) 大東亞鑛業ノ生産目標ニ取テ、爲メ鑛業技術ノ就中生産量ノ不足ヲ豫想セラル、鑛產資源ハニ備スル低品位鑛ノ處理方法ニ付キテハ急速ナル技術ノ研究ヲ必要トス。技術ノ研究ハ夫々ノ企業ニ之ヲ適當セシムルト共ニ各個ノ研究ノ連絡調査ヲ圖ル目的ヲ以テ技術統制機關ヲ設定スルヲ要ス

二、鑛業ノ立地配分

(イ) 鑛產物ハ天然ニ賦存スル資源ナレバ其ノ開發ニ付キテハ、錫ノ如ク各地域ニ亘リ豊富ニ資源ノ存スルモノ並ホ金ノ如ク特殊ノ事情ニ在ルモノヲ除キテハ、人爲的ニ立地配分方策ヲ決定シ難シ

(ロ) 製鍊ニ關シテハ原則トシテ本邦ニ於ケル現有設備ハ最高度ニ其ノ能力ヲ發揮セシムルコトトシ、新規増設ハ現地ニ於テ之ヲ行フコトトスルモ、技術、勞務、動力、燃料、輸送及ビ國防ノ諸要素ヲ考慮シ、現地製鍊ノ不可能ナルモノハ之ヲ本邦ニ於テ行フコトトス

更ニ具體的ニ言ヘバ、銅ノ如キハ本邦現有設備ニハ外國輸入鑛石ヲ目標トシテ建設セラレタル餘剩能力ヲ存スルヲ以テ大東亞共榮圈内既知銅資源ノ開發ニ對シテハ製鍊設備ノ増設ヲ必要トセザルモ、比島ニ於テ低品位銅鑛ノ開發ヲ行フニ當リテハ輸送條件ヲ考慮シ一部本邦現有設備ヲ比島ノ產銅地域ノ中心地ニ移



轉セシメ低品位鐵ノ開發ヲ容易ナラシムルヲ必要トスベシ。又  
 ニツケルニ付キテハ、今後ノ目標達成ノ爲メニハセレベス島所  
 在ノニツケル鐵ノ大量開發ヲ必要トスベク從ツテ多量ノ低品位  
 鐵ヲ處理スル爲メ坵地ニ煉所ヲ設ケ鐵ヲ生産セシムルコトヲ  
 要スベシ。又、鉛、亞鉛ニ付キテハ、鉛ハ主トシテ現地ニ於テ地  
 金ニ製鍊スル方策ヲトリ、亞鉛ハ精鍊トシテ運付シ本邦ニ製鍊  
 所ヲ増設スルヲ可トスベシ

三、鐵業建設ノ基礎條件

- (イ) 大東亞共榮圈建設ノ使命ハ戰果ニ依リ收メタル地域ヲ經濟的ニ確保シ絕對不敗ノ體制ヲ確立スルニ在リ
- (ロ) 鐵業建設ノ使命ハ大東亞ニ於ケル重要鐵產物ノ飛躍的ナル生産目標ヲ最短期間ニ達成スルニ在リ
- (ハ) 大東亞ノ鐵業建設ハ本邦ノ鐵業ガ中核トナリ遂行スベキモノトス
- (ニ) 本邦鐵業ハ之ヲ再編成シ鞏固ナル企業形態タラシムルコトヲ要ス

鐵業再編成

(1) 鐵業ハ資源ニ關約セラムモノナレバ資源ニ乏シカリシ本邦ノ鐵業ハ規模小ニシテ、全體ヲ合スルモノノ規模ハ外國ノ一鐵山會社ニ及バザリシ程ナリ

此小規模ナル母體ヲ以テ短期間ニ大東亞ノ鐵業ヲ建設セントセバ先ツ本邦鐵業ノ再編成ヲ敢行シ他ノ經濟國ニ對抗シ、進ンデ國外ニ雄飛シ得ル如キ世界的規模ノ企業形態ヲ確立シ得ル素地ヲ整備スルコトヲ必要トス

(2) 技術、勞務、資材、運送等大東亞戰爭遂行上ニ於ケル凡ユル困難ナル條件ヲ克服シ短時間ニ鐵業建設ヲ遂成センガ爲メニハ、本邦鐵山經營ノ徹底的合理化ヲ必要不可缺トス。之ガ爲メニハ、本邦鐵業ノ強力ナル再編成ヲ必要トス

(3) 現在ノ生産量ニ對シテ飛躍的ナル生産目標ヲ達成スルガ爲メ

ニハ巨額ナル資金ヲ必要トシ、然モ之ヲ短期間ニ調達スル難アリ。新ル資金ノ調達ヲ可能ナラシメ然モ之ガ投資ヲ最モ有效適切ナラシムル爲メニモ先ツ以テ本邦鐵業ノ再編成ヲ必要ナリトス

其企業ノ形態

(1) 個人主義的自由主義的經營ニヨリ始メテ最高ノ效率ヲ發揮シ得ルガ如キ形態ニ據ラズ、國家的經營ニ敏捷且ツ適確ニ應ジ得ルガ如キ形態ニ據ルコトヲ要ス。鑛産資源ノ開發ハ先ニ述ベタル如ク人為的ニ立地配分ヲ決定シ難ク從ツテ綜合的ナル計畫ノ下ニ有效ナル開發ヲ行フヲ要シ、然モ今後期待セララルルガ如キ飛躍的ナル増産ヲ遂行センガ爲メニハ低品位鑛ノ大意處ヲ必要トスベク、新ノ如キ狀勢ノ下ニ於テハ五ノ要請一層大ナルベシ

(2) 鑛業ハ其ノ性質上鑛産資源ノ發見ヲ前提條件トシ、殊ニ今後ノ生産目標達成ノ爲メニハ異常ニ活潑ナル資源ノ發見ヲ必トス。資源ノ發見ヲ獎勵センガ爲メニハ各地域ニ亘リ新設企業ノ創設ヲ促スノ要アリ。而シテ之等新設企業ノ成立ニヨリ支障ヲ與ス、且ツ國外ノ企業ニ對シテモ十分對抗シ得ル大規模ノ企業形態タルヲ要ス

(3) 激刺タル經營ヲ遂行セシムル爲メ經營ノ自主性ヲ保持シ得ルガ如キ形態タルヲ要ス

(4) 國家資本ヲ參加セシムルニ當リテハ直接ノ專業監督ハ之ヲ統制

(5) 金、錫ハ特異ノ性質ヲ有スルヲ以テ之ヲ別ニ記述スルモ、銅、鉛、亜鉛、ニッケル等ニ付キテハ其ノ自然的條件、技術的條件並ニ生産ノ規模等ニ應ジ、條件ノ許ス限りニ於テ綜合的ナル企業形態ヲ確立スルヲ要ス

六 統制機構

(1) 鑛産資源ハ其ノ性質上單一ノ鑛種ノ賦存スル場合ヨリモ數種ノモノノ賦存スル場合多ク、且ツ資源ノ發見ニハ先述ノ如ク新規企業ノ設立ヲ獎勵スル要アリ。從ツテ鑛業ノ再編成ニヨル大規模企業ノ確立ト相俟ツテ開發並ニ生産ヲ大東亞鑛業建設計畫ニ應ジテ統一の計畫的ニ遂行セシムル爲メニハ統制機構ノ整備ヲ

要トス

(四) 企業相互間並ニ大東亞各地域相互間ニ於テ技術、勞務、資材、輸送等ノ調整ヲ圖リ各企業ヲシテ有效ナル經營ヲ行ハシムル爲メニハ統制機構ノ整備ヲ要ス

(五) 右統制機構ノ整備ニ應ジ行政機構ノ再編成ヲ行ヒ經濟參謀本部ノ如キ統制機關ヲ設置スルト共ニ、統制機構ノ中核体タル統制機關ラ之ニ参加セシメ以テ大東亞鐵業ノ計量的運營ノ效果ヲ十分ニ發揮セシムルヲ要ス

(六) 右ノ如キ統制機構成立ニ際シテハ製鐵用原料礦物(鐵礦、瀝滄、錳等)、アルミ、シリカ原料礦物(珪石、高純度、鑛土頁岩等、肥料用原料礦物(磷礦)等ノ如キモノニ付キテハ、大東亞鐵業施設ニトリテ最モ有效適切ナル統制方式ヲ確立スルヲ適當トスベシ

七 銅

(1) 銅ハ金及錫ノ如キ特殊ノ立場ニハアラザルモ大東亞建設ノ生産目標ニ對シ既知ノ資源ノミヲ以テシテハ最モ生産ノ不足ヲ豫想セラレルモノナルニヨリ特殊ニ増産對策ニ付キ特記ス

(2) 大東亞共榮圈内ニ於テ最大ノ銅ノ生産地ハ内地ナレバ差當リ銅ノ増産ハ内地ニ期待セザルヲ得ズ。之ガ爲メニハ技術上經濟上劃期的ノ工夫ヲ要スルト共ニ銅増産ニ對スル適切ナル獎勵助長方策ヲ施ス要アルベシ

(3) 内地ニ次グ銅ノ産地タル比島ニ付キテハ既知資源ノ積極的開發ニ努力スルト共ニ低品位礦處理ノ爲メ中央興業所ノ設置等ヲ考慮スル要アルベシ

(4) 比島、フィリピン、ビルマ、泰北部ノ各地ニ亘リ銅資源ノ調査ニ全力ヲ注グヲ要スベシ

(5) 銅ハ他種礦物ト共ニ産出スルコト多キヲ以テ銅ノ増産ニ付キテ

ハ之等他種礦物トノ關聯ニ於テ方策ヲ決スルヲ要ス  
(イ) 右ノ如キ諸方策ヲ以テシテモ不足ヲ豫想セラル、ヲ以テ銅ノ消費規正、代用品ノ研究並ニ代用品ノ強制使用ヲ強行スルヲ要ス

### 八金

(イ) 今日金ガ有スル特異ノ地位ハ其ノ將來ノ重要性ニ關シ確定的ナ  
ル斷定ヲ爲シ得ザル所ニ在リ。將來金ガ國際通貨トシテノ地位  
ヲ確保シ得ルヤ或ハ單ニ裝飾品タルニ終ルヤハ豫斷シ得ザル所  
ナリ。從ツテ金ノ生産ヲ全ク停止スルコトモ不可能ナルト同時  
ニ之ガ生産ヲ今日ノ如キ狀態ヲ以テ繼續スルコトモ困難ナリ  
(ロ) 金ガ上記ノ如キ不確定ナル立場ニアルニ拘ラズ、本邦産金事業  
ノ投資額ハ金屬鑛總投資額ニ對シ三分ノ一ヲ超ユル額ヲ占メ  
本邦金屬鑛構成上重大ナル意義ヲ有ス  
(ハ) 然ルニ大東亞鑛産ノ爲メ例、鉛、亜鉛、ニツケル等ハ飛躍的増  
産ヲ必要トスル事懸ニアリ。産金事業ヲ不確定ノ態ニ放置シ斯  
カル生産目標ヲ達成セントスルコトハ不可能ニ近ク、從ツテ産  
金事業ノ再構成ハ大東亞鑛産鑛産ノ爲メ不可缺ノ前提タリ



(二) 産金事業ノ再編成ニ當リテハ、今ノ將來ガ不確定ナル特異性ニ鑑ミ、本邦並ビニ大東亞各地域ノ産金事業ヲ特殊ナル企業体ニ統一シ、起リ得ベキ各般ノ専断ニ對應シ得ル態勢ヲ整ヘシムルヲ要ス。新カル企業体ヲ以テスレバ必要ナル場合ニハ生産費低廉ナル比島、ニニ、ニニ等ノ金礦ヲ有效ニ利用スルコトモ可能ナルベシ

(三) 以上ノ如キ産金事業ノ再編成ニ依リ本邦金屬鑛業ハ重要鑛産物ノ増産ニ邁進シ得ル要固ナル基礎ヲ得ルノミナラズ、技術、器材等ニ付キテモ之等ヲ他ノ重要鑛産物ノ生産ニ轉換シ得ベク、以テ大東亞鑛業建設ニ參與シ得ル所尠カラザルベシ

(二) 産金事業ノ再編成ニ當リテハ、今ノ將來ガ不確定ナル特異性ニ鑑ミ、本邦並ビニ大東亞各地域ノ産金事業ヲ特殊ナル企業体ニ統一シ、起リ得ベキ各般ノ専断ニ對應シ得ル態勢ヲ整ヘシムルヲ要ス。新カル企業体ヲ以テスレバ必要ナル場合ニハ生産費低廉ナル比島、ニニ、ニニ等ノ金礦ヲ有效ニ利用スルコトモ可能ナルベシ

(三) 以上ノ如キ産金事業ノ再編成ニ依リ本邦金屬鑛業ハ重要鑛産物ノ増産ニ邁進シ得ル要固ナル基礎ヲ得ルノミナラズ、技術、器材等ニ付キテモ之等ヲ他ノ重要鑛産物ノ生産ニ轉換シ得ベク、以テ大東亞鑛業建設ニ參與シ得ル所尠カラザルベシ

(1) 大東亞共榮圈內ノ錫生産額ハ世界總生産額ノ約七〇%ヲ占ムルノ實情ニアリタルモ、錫ハ其ノ用途上半貴淨品トシテ使用セラレタル部分多量ニ上リ、若シ錫ヲ必需品ノミニ使用シタリトセバ從來ノ生産額ノ半分ヲ以テ充足シ得タルモノト推定セラレバ從ツテ過去ニ於テ錫ノ價格ノ上騰セルハ半貴淨品トシテノ錫ノ使用ノ増加ガ主要ナル原因ヲナセルモノニシテ、又價格ノ下落セルハ生産統制ノ缺如ニヨル生産過剰ニ原因セルモノナリ

(2) 和蘭政府ハ蘭印ノ錫ヲ國家ノ財源トスル爲メ之ヲ國營トシ有效ナル經營ヲ續ケ來レルモ、錫最大ノ產地タル馬來ニ於テハ之ヲ統一スル組織ナク永年ニ亘リ生産過剰ト錫事業ノ混亂ヲ反覆セル後漸ク近年ニ至リ英國資本ニヨル統一ヲ略々完了シ事業ノ安定ヲ見ルニ至レリ

(3) 尙大東亞以外ニ錫ノ產地トシテハ南米及ビアフリカ等ノ主要產地アリ

地アリ。殊ニアフリカハ錫產地トシテ將來有望ニシテ大東亞ノ錫ニトリ有力ナル將來ノ競爭對手ト考ヘラル

(4) 又大東亞內ノ錫ノ生産額ニ付キテ見ルモ地域ニヨリ相異シ、更ニ馬來ノ如ク同一地域內ニ於テ見ルモ北部ト南部トニ於テハ甚シク生産額ニ高低アルヲ知ル

(5) 以上ノ如キ錫ニ關スル諸條件ヲ考慮ニ入レ大東亞ノ錫ヲ有效ニ開發經營シ之ヲ世界經濟上有利ニ活用セントセバ、第一ニ大東亞ニ於ケル錫ノ生産ヲ世界市場トノ關係ニ於テ常ニ敏感ニ調整シ得ルコトヲ必要トス、次ニ大東亞各地ノ錫生産ヲ生産費其他ノ生産條件ニ應ジ相互間ニ圓滑ニ調節シテルコトヲ必要トス

(6) 更ニ錫ノ市場ヲ大東亞內ニ局限スルトキハ錫ノ需要ハ現在生産能力ノ一小部分ヲ以テ十分ニ充足シ得タリ、又之ヲ世界市場ニ供給センガ爲メ全生産能力ヲ發揮セシムルトセバ其ノ規模洵ニ大ナルベク、從ツテ錫ノ開發經營ハ各ノ專斷ニシテ敏感ニ然モ伸縮自在ニ動キ得ラレ然モ各產地ニ亘リ強力ナル統制力ノ

六 鑛業法並ニ鑛業權

及ビ得ル企業形態タルコトヲ必要トス

(例) 依テ錫ハ探堀製鍊販賣共ニ大東亞ヲ通ジ一企業體ニ統括スルコトヲ最適切ト認ム

(四) 南方ニ於ケル鑛山ノ開發ニハ鑛業法規ガ至大ノ關係ヲ有スルモノナレバ南方各地ノ鑛業法ノ制定ニ當リテハ、資源ノ發見ヲ發掘スルト共ニ、徒ラニ鑛業權ヲ守保スルコトニヨリ實際鑛産資源ノ開發ヲ遲延セシメザルノ工夫ヲ講ジ、現ラ避ケ向ニ就キ、以テ急送ナル資源ノ開發ヲ行ハシムルコト肝要ナリトス。

(三) 大東亞各領域ヲ通ジ日下重管轄下ニアル敵國人又ハ第三國人ノ所有ニカカル既結鑛山ノ鑛業權ハ領域ニヨリ權利ノ内容ヲ異ニスルト共ニ、鑛業權ノ所有ノ形態モ區々ナルヲ以テ、早急ニ之ガ屬權ヲ決定スルハ面目カラズ。蓋シ鑛業權ノ歸屬ノ如何ハ大東亞鑛業建設ノ將來ニ重大ナル影響ヲ及ボスベケレバナリ。

依ツテ敵國人又ハ第三國人ノ既結鑛山ノ鑛業權ハ之ヲ全部大

七ホ

東亞鑛業ノ中樞統制機關ニ保管セシムルコトトシ、然ル後ニ皇國ヲ中核トスル鑛業建設ヲ迅速且強力ニ遂行シ得ルヤウ、開發ノ段階ニ應ジ、最善ノ解決ヲ計ルヲ適當ト認ム

以上

極秘

昭和十七年六月三十日

未定稿

大東亞產業建設（鑛業、工業及電力）建設基本方針

（第五部會答申）



石炭、石油、鑛業、電力、  
鉄鋼、金屬、  
化學工業、電力、大

E0.0.0.3-3-1

第一方針

大東亞產業建設ハ「大東亞經濟建設基本方針」ニ則リ大東亞全般ノ  
經濟力ヲ綜合的ニ發揮シ以テ大東亞防衛ニ必要ナル自主的國防生産  
力ヲ完成シ併セテ新世界經濟ニ對スル大東亞ノ指導力ヲ確立スルニ  
在リ

三之ガ爲國防上並ニ大和民族配置上ノ要請ヲ先決條件トシ日滿支經濟  
建設計畫ヲ骨幹トシテ大東亞戰爭ノ戰果ニ照應シ各般ノ産業立地條  
件ヲ考慮シテ適地適業ヲ趣旨ニ則リ最高能率ヲ發揮シ得ル如ク既定  
計畫ニ所要ノ修正ヲ加ヘ人口政策、農業政策トシテ關聯ヲモ願慮シ皇  
國指導ノ下ニ大東亞ノ産業全體ノ計畫的發達ヲ圖ルト共ニ圈内各地  
域ニ於ケル産業ヲ皇國ヲ核心トスル有機的一體タラシムルガ如ク相  
互ノ經濟的紐帶ヲ強化シ以テ大東亞自給自足體制ノ確立ヲ期ス  
三皇國ヲ核心トスル圈内各地域、各住民ノ普遍的共同目的タル大東亞  
建設達成ノ爲各々其ノ總力ヲ結集シ其ノ能力ニ應ジ之ガ遂行ニ努ム



ルモノトシ左ノ方途ヲ講ズ

(一) 産業別人口構成ニ於ケル鑛工業部門ノ比重増大シ兵力供給源トシテモ最重要ナル地位ヲ有スルニ鑑ミ鑛工業勞務者就中青少年勞務者ノ心身ノ鍊成ヲ強化シテ其ノ資質ヲ増強スル如ク勞務管理ノ徹底的刷新ヲ圖ル

(二) 重要資源殊ニ不足ヲ豫想セラレルモノニ付テハ各種機關ノ機能ヲ強化動員シ徹底的ニ之ヲ調査ヲ行フ

(三) 科學技術ノ飛躍的振興ヲ圖リ試驗研究機關ヲ擴充強化シ技術ノ公開等ノ方途ヲ講ズルノ他技術者、技能者ノ劃期的養成ヲ行フ

(四) 産業建設ヲ強力ニ圈内各地域ニ展開推進スル爲核心タル皇國ニ於テ其ノ總力ヲ結集動員シ得ル如ク各産業ノ實情ニ即應シツツ其ノ綜合的再編成ヲ行フト共ニ徹底的合理化ヲ行ヒ之ガ爲特ニ機械化並ニ規格ノ統一ヲ重視ス

(五) 産業建設ノ綜合一貫性ヲ保持シ且之ガ計畫的遂行ヲ確保スル爲各

地域ヲ通ズル産業別統制機構ヲ整備スルト共ニ統制會ノ機能ヲ充實強化ス

(六) 建設ニ要スル資金ハ綜合的金融政策ニ基キ計畫的調辨ヲ確實且圓滑ナラシム尙能フ限り現地資金ノ動員活用ヲ圖ル爲特段ノ施策ヲ講ズ

(七) 産業建設ニ即應先行シテ海陸輸送施設ヲ整備増強シ計畫輸送ノ遂行ヲ圖ル

(八) 計畫交易ノ迅速且適正ナル遂行ヲ期スルト共ニ價格政策(爲替政策ヲ含ム)ノ圓滑適切ナル實施ヲ行ヒ産業建設ノ遂行ニ資ス

第二 建設ノ目標及順位

一、大東亞産業建設ハ、概ネ十五ケ年間ニ重要國防資源ノ自給自足ヲ圖ルヲ目標トシ、之ヲ二期ニ分ツ

ニ、第一期(五ケ年)ニ於テハ左ノ業種ノ資元ニ重點ヲ置キ、且原料資源ノ開發、輸送力ノ増強、動力ノ開發建設ヲ優先的ニ考慮ス

鐵 鋼

石 炭

石油其ノ他ノ液體燃料

銅

アルミニウム

航 空

船 舶

肥 料

電 力

セメント

三、第二期(十ケ年)ニ於テハ國防産業ノ生産力ノ確保、民生ノ暢達ヲ圖ルヲ目標トシ、均整調和セル産業建設ヲ圖成ス

四、大東亞産業ノ建設ハ右ニ基キ建設目標ヲ定メ期間計畫ヲ策定シテ之ヲ行フ

第一期及第二期ノ主要ナル建設目標ハ、概ネ別表ノ通トス

五、建設ハ國防上ノ要請ニ即應スルノ外各業種、各地域ヲ通シ原則トシテ所要ノ資材等比較的少量ニシテ急速ニ完成セラルト共ニ原料、勞力、運輸等ノ諸條件ヲ調査シ最モ效率的生產ヲ期シ得ベキモノヨリ逐次重點的ニ實施スルモノトシ、且全地域ヲ通ズル産業ノ效率的配分ニ付願慮シ能フ限り諸建設上跛行隘路ヲ生ゼサル様態ニ配意ス



第三 各地域建設ノ指標

一 圈内各地域ノ建設ハ其ノ統治形態、地理的性質等ノ特性ヲ勘案シ國防上ノ要請、原料、動力、輸送力、勞力其ノ他ノ立地條件ニ即應セシムルト共ニ全地域ガ綜合的有機的一體トシテ相互ノ牽連ヲ保持スル如ク計畫的ニ之ヲ遂行シ大東亞産業ノ最高能率ヲ發揮セシム

二 皇國ニ於テハ帝ニ精密工業、機械工業、兵器工業等ノ高度工業ニ重點ヲ置キ其ノ劃期的擴充ヲ圖ルト共ニ適地適業ニ依リ其ノ他ノ重工業、化學工業及鑛業ノ振興ヲ圖ルト共ニ之ガ原動力タル電力ノ擴充ヲ圖ル輕工業及中級工業、雜品工業ハ階級ノ情勢ニ對應シ之ヲ計畫的ニ逐次其ノ一部ノ圈内他地域ヘノ移動ヲ行フ

尙皇國ハ大東亞産業建設ノ起動力タルニ鑑ミ國民ノ氣魄ヲ昂揚シ國內情勢ノ刷新ヲ圖リ國力ノ擴充ニカメ以テ大東亞ノ産業建設ヲ指導育成スルト共ニ科學技術ノ劃期的振興ヲ圖リ又先端工業ノ開拓ニ任ズ

三 滿洲國ニ於テハ鑛業、電力、製鹽業ノ開發擴充ニ重點ヲ置クト共ニ製鐵業及化學工業ノ振興ニ努メ機械工業及兵器工業ハ國防上ノ要請其ノ他ノ必要ニ應ジ之ヲ興ス輕工業ハ國內ノ需要ニ應ジ之ヲ興ス

四 支那ニ於テハ鑛業、製鹽業ノ振興ヲ圖リ殊ニ北支ニ於テハ黃河ノ治水發電ヲ行フト共ニ石炭、電力等ニ依存スル製鐵業、化學工業等ノ劃期的振興ヲ期ス輕工業ハ皇國産業ノ發展段階ニ照應シツツ相互ノ調整ヲ圖リ逐次其ノ發展ヲ圖ル

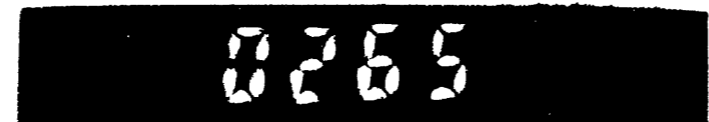
五 南方ニ於テハ差當リ鑛業並ニ石油事業ノ振興ニ其ノ重點ヲ置クト共ニ各種特産物ノ加工處理ニ關スル工業ヲ興シ且逐次水力發電ノ開發ニ伴ヒアルミシム工業ノ擴充ヲ期ス輕工業ハ既存ノモノヲ整備スルノ外資源賦存ノ狀況ニ依リ逐次其ノ發展ヲ期ス

第四 主要産業ノ開發建設要領

一、製鐵事業

- (一) 製鐵原料特ニ石炭及鐵錳石ノ賦存狀況ニ應ジ新流補充ノ重點ヲ滿洲及北支ニ置キ遂次中支及南方ノ建設ヲ策シ日本ニ於テハ認定計畫ノ遂行ヲ促進スルト共ニ現有設備ノ整備ト其ノ能力發揚ニ努ム
  - (二) 國內各地域ニ亘リ特殊合金鐵原料錳物ノ開發ヲ促進スルト共ニ特殊鑛生産ノ強化改善ヲ圖ル
  - (三) 各地域ノ產出原料其ノ他ノ特性ニ照應セル技術ヲ伸張確立シテ各種ノ特殊製鐵事業ヲ擴充ヲ講スルニ際シ南方ニ於テハ木炭等ノ活用ニ着意スルノ外電力ノ開發ニ即應シ電氣製鐵ヲ考慮ス
  - (四) 製鐵事業ノ躍進ニ伴ヒ入送石油、セメント其ノ他ノ化學工業ヲ之ニ關聯セシメ其ノ多角的躍進ヲ圖ル
- 三、石炭事業
- (一) 資源賦存ノ狀況ニ依リ且他ノ諸建設ニ對應セシメ主トシテ北支、

- 滿洲及樺太ニ於テ港灣ノ施設及輸送力ヲ考慮シ劃期的開發ヲ行フト共ニ錫印其ノ他南方ニ於テハ所要ノ他地域ヘノ供出ヲ確保スルノ外現地目給ヲ主眼トシテ之ガ開發ヲ爲ス日本内地ニ於テハ新鑛(肥筑灰田等)ヲ開發シ産力優良炭ノ増産ヲ圖ル
- (二) 各炭坑ニ付テハ山元選炭ヲ行フヲ原則トシ所要ノ施設ヲ整備スルト共ニ機械化作業ノ合理化等ニ依リ出炭能率ヲ増進ス
  - (三) 原料炭、發生爐用炭等ノ特殊炭ニ付テハ各炭坑ヲ適シ重點的ニ開發増産ヲ促進確保スルト共ニ其ノ消費ノ適正化ニ付適當ナル措置ヲ講ス
  - (四) 石炭ノ大量貨物タルニ鑑ミ特ニ産業建設計畫ノ樹立ニ付石炭開發計畫トノ關聯ヲ考慮シ特ニ其ノ大量消費産業タル電力事業其ノ他ノ産業トノ關聯ヲ整へ之ガ輸送ノ圓滑ヲ圖ル
  - (五) 石炭ノ増産ニ伴フ坑木ノ供給ヲ確保スル爲メ滿洲、北支ニ於テ急速ニ植林其ノ他ノ措置ヲ講ス





三、石油鑛業其ノ他ノ液體燃料事業

- (一) 石油資源ノ開發ニ付テハ特ニ南方ニ其ノ主力ヲ傾注スルト共ニ日本内地及北樺太ノ油田ノ開發ニ努ム
- (二) 南方ニ於ケル精製及貯藏ノ施設ヲ急速ニ整備スルノ外日滿北支ニ重點ヲ置キ逐次各需要地ニ施設ノ整備増強ヲ圖ル  
皇國ニ於テハ特ニ高級品ノ精製ヲ主眼トシテ施設ノ擴充ニ努ム
- (三) 南方ノ油田開發等ニ依ルモ充足不十分ナルベキ航空用揮發油、高級潤滑油等ノ生産及天然石油資源ノ補足ヲ主眼トシ可及的速ニ人造石油事業其ノ他化學燃料事業ノ整備擴充ヲ圖ルト共ニ天然石油ノ精製部門及人造石油ノ兩事業ヲ通ズル綜合的統制機構ヲ整備シ以テ所要資金ノ供給、技術ノ向上並ニ綜合的指導ニ任ゼンム
- (四) 人造石油事業ノ新規擴充ハ適性炭ノ生産及其ノ需給關係ヲ勘案シ

差當リ滿洲、樺太、北海道ニ其ノ重點ヲ置キ更ニ北支ニ於テ其ノ  
 劃期的建設ヲ行フ

- (五) 石油資源ノ開發ニ伴ヒ鑿井機其ノ他精製用機器ノ劃期的擴充ヲ圖ル
- (六) 石油ノ尨大ナル需要ニ應ズル爲人造石油製造技術ノ刷新ヲ圖リ代用燃料ノ研究ト其ノ利用ノ強化ニ努ム
- (七) 人造石油製造業ノ擴充ト併行シ砂糖、コブヲ、パーム油其ノ他動植物油脂資源ヲ原料トスルアルコール、ブタノール、イソオクテン、潤滑油等ノ液體燃料ノ製造ノ劃期的擴充ヲ圖ル尙情勢ニ應ジテ原料トスルモノニ付テモ考慮ス
- (八) 原油並ニ製品ノ圈内ニ對スル輸送配分ヲ確保スルト共ニ圈内相互間ノ價格ヲ調整シ以テ人造石油事業ノ育成培養等燃料政策ノ振興ニ資スル爲適當ナル機構ヲ整備ス
- (九) 全域ヲ通ジ鑿井、精油及配分ノ全般ニ亘リ一貫シタル綜合計畫ヲ樹立スル爲強力ナル一元的行政機關ヲ設置ス

四 輕金屬工業

(一) アルミニウム工業ハ朝鮮、滿洲ニ於テ之ガ擴充ヲ促進スルノ外ホ  
イキサイト賦存ニ即應シ南方ニ於テ電力開發ヲ行ヒ其ノ劃期的擴  
充ヲ圖ル

尙北支ニ於テハ礬土頁岩ニ依ルアルミテ製造ノ事業建設ヲ促進シ  
尙黃河ノ發電完成ニ伴ヒアルミニウム工業ノ確立ヲ期ス

(二) アルミニウム製造ニ關スル技術的水準均衡セル現狀ニ鑑ミ南方ニ  
於ケルアルミニウム事業ニ付テハ特ニ綜合的運營ヲ考慮シ企業ノ  
方式ヲ定メ以テ重點的總力集中ヲ可能ナラシム

(三) アルミニウム増産目標達成ノ爲其ノ副原料タルピツチコークス、  
弗化物、工業鹽等ノ急速ナル擴充ヲ行ヒ其ノ供給ヲ確保ス

(四) マグネシウムニ付テハ之ガ利用ノ技術ノ刷新ヲ行フト共ニ生産技  
術ヲ向上確立スル爲斯業ノ整備擴充ヲ行フ

(五) マグネシウム製造事業ニ付テハ主トシテ朝鮮、滿洲等ニ於ケルマ

五 非鐵金屬鑛業及非金屬鑛業

グネサイト鑛ヲ原料トシ其ノ擴充ヲ圖ル

(一) 非鐵金屬及非金屬鑛業ニ付テハ差當リ大東亞各地域ノ既開發鑛山  
ノ増産ニ主力ヲ注グト共ニ未開發資源ノ調査就中不足ヲ豫想セラ  
ルベキ鑛産資源ノ探求ヲ重點的且急速ニ實施ス尙鑛業技術ノ向上

ヲ促進シ特ニ低品位鑛ノ處理方法ニ付急速ナル技術ノ發達ヲ期ス  
(二) 銅ハ比律賓及皇國ノ飛躍的増産ヲ促進スルノ外未開發各地域ノ  
調査ヲ遂行シ滿、支、ビルマ、ボルネオ、セレベス、ニューギ

ニヤ等ノ開發ヲ極力推進ス  
(三) 鉛及亜鉛ハ日、滿、ビルマ其ノ他既開發鑛山ノ増産ニ努ムルノ  
外泰、佛印、比律賓、ニューギニヤ等ノ開發ヲ促進ス

(四) ニツケル、コバルト、タローム、モリブデン、ワナヂウム、タ  
ングステン、マンガン等ニ事テハ日、滿、支ノ施設ノ増強ヲ圖  
ルノ外ビルマ、セレベス、チモール、比律賓等ノ各地域ニ付極



力調査開發ニ努ム

金ニ付テハ皇國金屬鑛業ノ構成ニ鑑ミ急遽ニ産金專業ノ再編成ヲ行フト共ニ金ノ特性ヲ勘案シ産金專業ニ付將來各級ノ專態ニ對應シ得ベキ特殊ナル企業方式ノ採用ヲ考慮シ差當リ現狀ノ維持ヲ圖リツツ新情勢ニ即應シ適宜之ヲ調整ス

(四) 錫ニ付テハ南方ニ於ケル斯業ノ特性竝ニ世界ニ於ケル錫ノ需給狀況ニ鑑ミ全地域ヲ通ジ採掘、製鍊、販賣ヲ一貫シ其ノ運営ヲ一元的ニ統括シ得ベキ企業方式ヲ採用シ以テ情勢ニ即應シ得ルノ措置ヲ講ズ

尙錫ノ新規處理ノ技術ヲ拓開シ以テ可及的之ガ活用ヲ圖ル

(五) アンチモンハ支那ニ於テ確保ス

(六) 水銀ニ付テハ日滿支ノ増産ヲ圖ルノ外ボルネオ、スマト等、佛印等ノ開發ヲ促進ス

(七) 雲母、石綿、加里、螢石、硼砂、工業用ダイヤモンド等ノ地下

資源ニ付テハ各種ノ調査機能ヲ強化動員シテ重點的且組織的ニ調査ヲ實施ス

(一) 非鐵金屬ノ製鍊ハ原則トシテ皇國ニ於テハ現有設備ノ最高度活用ヲ圖リ新規増設ハ可及的現地ニ於テ之ヲ行フト共ニ必要ニ應ジ内地現有設備ノ現地移轉ヲモ考慮ス。但シ國防上ノ見地及技術、勞力、動力、燃料、輸送等ノ諸條件ヲ勘案シ現地製鍊ニ適セザルモノニ付テハ之ヲ皇國ニ於テ行フ

尙錫石ヲ輸送スル必要アル場合ニ於テモ出來得ル限り現地ニ於テ之ガ選鑛ヲ行ヒ又ハ或程度ノ精鍊ヲ行ヒタル上之ヲ輸送ス

(二) 皇國鑛業ノ現狀ト建設目標トニ鑑ミ本邦鑛業ノ再編成ヲ敢行シ聲聞ナル企業形態ヲ形成シ發展的體制ヲ確立ス

六 造船業

(一) 船舶ノ建造ハ貨物船(鑛石船ヲ含ム)及油槽船ニ其ノ主眼ヲ置キ機帆船、曳船其ノ他各種ノ船舶ニ付燃料ノ需給關係ヲモ考慮シ建



造ノ計畫的遂行ヲ期スルト共ニ造船技術ノ劃期的向上ヲ促進シ計  
畫造船ニ對應スヘキ鋼材、機械等ノ計畫的増産ヲ確保ス

(二)造船設備ノ擴充ハ主トシテ皇國ニ於テ之ヲ行ヒ、他ノ各地域ニ於  
テハ主トシテ既存施設ノ整備擴充ヲ圖リ極力之ガ利用ノ方途ヲ講  
ズルノ外專ラ修理能力ノ整備ニ努ム

(三)近海、沿岸、内海、河川等ノ航運ニ資スル爲各地域ニ於テ可及的  
木造船ノ建造擴充ヲ行フ

#### 七、自動車工業

(一)自動車ハ特ニ貨物車ノ生産能力ノ擴充ニ主眼ヲ置キ日本内地ニ於  
テ之ガ飛躍的増強ヲ圖リ他ノ地域ニ於テハ軍需上ノ要請ニ基クモ  
ノノ外專ラ修理、組立又ハ部品工業ノ整備ヲ圖ル尙予イザル軍ノ  
増強ヲ考慮ス

(二)自動車用各種燃料ニ關シ調査研究ヲ行ヒ自動車燃料對策ヲ確立ス  
ルト共ニ其ノ燃料ニ對應シ自動車ノ規格ヲ統一シ自動車製造ニ關

スル技術ノ劃期的向上ヲ圖ル

#### 八、車輛工業

車輛工業ハ機關及貨車ノ増備ニ重點ヲ置キ皇國ヲ中核トシテ之  
ガ擴充ヲ行ヒ南支ハ概ネ自給自足ヲ目途トシテ之ガ生産ノ基礎ヲ  
確立ス

南南方ニ付テハ適宜修理、組立又ハ部品工業ノ設備ヲ策ス

#### 九、機械工業

(一)精密機械、電氣機械、主要産業用機械等ノ基礎的機械工業ハ  
國防軍ニ資シ開發、産業建設、輸送力ノ増強等ノ要求充足ヲ自  
達トシ皇國ヲ中核ニ南支ヲ其ノ補助的兩翼トシテ之ガ飛躍的擴  
充ヲ圖ル

南方諸地域ニ於テハ技術ノ育成、部品工業ノ培養ノ必要等ニ關  
スル機械工業ノ特性ニ鑑ミ主トシテ組立及修理工場ノ整備ヲ圖  
ル

(二)國內各種建設ノ飛躍的展開ニ即應スル爲機械素材ノ品質ノ改善 17

向上ヲ圖ルト共ニ特ニ技術ノ向上、規格ノ統一、機械工業ノ専門化、下請工場ノ整備、技術者ノ養成訓育、發注ノ統制等ヲ行ヒ機械工作力ノ急速ナル翻期の増強ヲ圖ル

七 化學工業、其ノ他

(一) 軍需素材、高級燃料、肥料、衣料、醫藥品等國防力ノ強化、産業ノ建設及民生ノ暢達上ノ必要ニ即應シ化學工業ノ飛躍的擴充發展ヲ圖ル

(イ) 石炭ヲ主タル原料トスルモノ

石炭ヲ主タル原料トスル化學工業ニ付テハ石炭資源賦存ノ狀況ニ依リ主トシテ樺太、北支、滿洲ニ於テ之ガ建設ヲ行フ

(ロ) 電氣ヲ原料トシテ使用スルモノ

電氣ヲ原料トシテ使用スル化學工業ノ建設ハ差當リ日滿ヲ中心トスルモ東ニ北支及南方ニ於ケル電力開發ノ進捗ニ伴ヒ該地ニ於テ之ガ擴充ヲ圖ル

(ニ) 無機原料ヲ使用スルモノ

無機原料ヲ使用スル化學工業ハ綜合多角經營ヲ本則トスルノ特性ニ鑑ミ皇國ヲ中心トシテ之ガ整備ヲ行フ

(三) 有機原料ヲ使用スルモノ

ゴム、砂糖、コブラ、パーム油等主トシテ南方農産資源ヲ原料トスル化學工業ニ付テハ農業並ニ資源政策ニ即應シ資源賦存ノ狀況、技術、勞務、輸送等各般ノ條件ヲ勘察シ適地適業ニ依リ之ガ發展ヲ圖ル

(四) 化學工業ノ隱進ニ備ヘ實達、臭素等ノ供給確保ノ爲主トシテ支那

ニ鹽田ノ増設ヲ行フノ外南方ニ於テモ其ノ開發ヲ圖ル

(五) 硫酸資源ハ差當リ専ラ内地硫化鐵ノ増産ヲ促シテ充足ヲ期スルト

共ニ支那石膏ノ利用ヲ考慮シ又硝安、鹽安ノ如キ硫酸ヲ使用セザル代換品ノ積極的施用策ヲ講ズ

尙加里資源ニ付テハ特ニ各般ノ施策ヲ講ズ



(四) 諸建設ニ所要ノセメントハ可及的現地ニ於テ先行開發ニ努メ其ノ他建設遂行上必要ナル附帶的雜工業モ原則トシテ各地域ノ建設ニ併行シテ之ガ育成ヲ期ス

### 十六 纖維工業

(一) 原料資源ノ自給自足ヲ目途トシ北中支及南方諸地域ニ於テ棉花ノ増産ヲ行フノ外内地、朝鮮、臺灣、滿洲、支那ニ於テハ夫々大麻、亞麻、黃麻、分テテ、苧麻等ヲ、南方諸地域ニ於テハ苧麻及黃麻ノ増産ヲ圖ルト共ニ皇國ニ於テハ絹織維供給ノ中樞トシテ其ノ生産確保ニ努メ生産滿ノ相當部分ハ之ヲ短織維製造ニ充ツル豫措置ス

尙支那蠶糸業ニ關シテハ國內纖維ノ需給ニ照應シ且内地蠶糸業トノ調整ヲ保チ適切ナル指導ヲ行ヒ滿洲ノ柞蠶並ニ内地及南方諸地域ニ於ケル野蠶繭絲類ニ付テハ其ノ適正ナル發達ヲ圖ル

(二) 羊毛資源ニ付テハ其ノ重點ヲ北滿、蒙古及北支(晉ニ山西省)ニ

### 置ク

(三) 日滿ノ潤葉樹、南方産樹種並ニパカス、竹等木材以外ノ各種資源

ニ依ルパルプノ製造ヲ行フト共ニ「パルプ」適樹ノ維持、造林ヲモ考慮シ製紙及人造纖維原料ノ確保ヲ圖リ新情勢ニ應シ特ニ薄葉紙、夕ラフト紙、印刷及新聞用紙ノ可及的速ナル増産ヲ圖ル

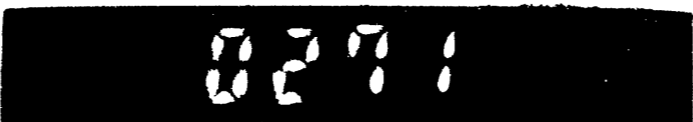
尙パルプ工業ノ擴充ヲ行フト共ニ合成化學纖維工業ノ確立ヲ圖ル

(四) 纖維工業ニ付テハ原料資源ノ賦存狀況、勞務、輸送等ノ諸條件ヲ勘案シ皇國ニ於ケル工業ハ漸ク充足、民需自給、高級品ノ技術確保並ニ化學纖維ニ其ノ重點ヲ置キ諸般ノ情勢ニ應シ逐次其ノ一部ヲ立地條件ニ從ヒ國內各地域ニ計畫的ニ之ヲ移駐ス

### 十一 電力

(一) 大東亞全地域ニ亘ル續工業、農業及交通等ニ對スル電化政策ノ實施ヲ期シ以テ諸建設計畫遂行ニ遺憾ナカラシム

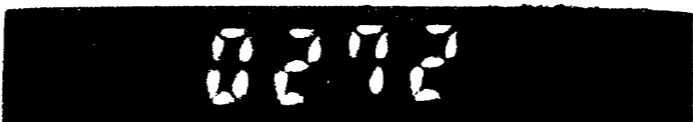
(二) 電力ノ開發ハ國防計畫、産業開發計畫ニ即應セシメ綜合且計畫的



- ニ諸建設ニ先行シテ之ヲ實施シ特ニ工事ニ着手セル施設ノ完成ニ差當リ其ノ主力ヲ集中シ其ノ急速ナル建設ヲ期ス
- (三) 電力ノ開發ハ水力發電ヲ主トシ、火力發電ハ石炭地帯ニ於ケル粗悪炭ノ消化、石炭ノ複合的利用、低級燃料ノ活用、重要地帯ニ於ケル電力需給ノ調節上符ニ必要トスルモノノ開發ニ止ム
- (四) 日本内地ハ主トシテ動力的ニ使用スル電力ヲ集約的ニ開發シ其ノ最有效利用ヲ期ス
- (五) 原料的ニ使用スベキ電氣ハ主トシテ鮮、滿、北支、臺灣、佛印、スマトラ、セレベス等ノ水力資源ニ期待スルモノトシ鮮、滿、北支、臺灣ニ於テハ特ニ其ノ大規模開發ニ依ル利點ヲ活用ス
- (六) 黄河ノ改修發電ヲ施行シ併セテ農産特ニ棉花小麥ノ増産竝ニ民生ノ安定ニ資ス
- (七) 南方ノ水力開發ハ速急ニ企業的實査ヲ進メ之ガ建設ニ着手ス
- (八) 皇國ヲ中心トシテ大東亞ニ於ケル電力施策ノ統整ヲ圖リ電力事業

相互間ニ於ケル技術及機材ノ融通交流竝ニ電力技術ニ關スル方式ノ統一及電力用機器ノ標準化ノ實施ニ依ル動力力ノ強化ヲ期ス

(九) 電力動員ノ圓滑強化ヲ圖リ動力素源ノ綜合利用ヲ先カサシ本邦電力ノ開發及運営ハ原則トシテ電力事業トシテ之ヲ獨立シ行ハシム



第五 建設遂行方策

一、要員、資材及資金ノ充足

(一) 諸建設計畫ノ遂行ニ即應シ所要ノ要員、資材及資金ノ最モ有效  
適正ナル活用ヲ圖ル爲綜合統轄的ニ其ノ確保配分ヲ行フ

(二) 高級技術要員ハ皇國ニ於テ其ノ所要ノ充足ヲ圖ルモノトシ之ガ  
爲技術者養成ノ劃期的擴充ヲ行フ

(三) 現地開發ニ所要ノ技術要員及勞務者ハ原則トシテ現地住民ヲ  
成シテ其ノ活用ニ務ムルト共ニ各地域人口ノ構成、建設ノ進歩  
等ニ對應シ計畫的ニ各地域ノ勞務要員ノ地域外移動ヲ調整ス  
(四) 勞働力ノ增強ヲ圖ル爲機械、電力等ノ有效利用ニ努ムルト共ニ  
勞務管理ノ徹底的刷新ヲ圖ル

(五) 所要資金ニ付テハ事業ノ性質ニ應ジ可及的各地地場資本ノ活用  
ヲ圖ルト共ニ必要ニ應ジ適當ナル方式ニ依リ國家的資本ノ運用  
ヲ圖ル

二建設方式

(一) 産業建設ヲ擔當スベキ企業ノ形態ハ各地域ノ統治乃至指導ノ基  
本方針ニ準據シ且經濟ノ發展段階、民衆、産業ノ種別等ニ應ジ  
夫々必要適切ナル方式ニ依ル

(二) 國防産業、基礎産業、電力事業等戰爭遂行力ノ增強確保ニ特ニ  
必要ナル産業ニ付テハ全地域産業ノ有機的連繫ノ強化徹底ヲ圖  
ル爲皇國ニ於テ其ノ運営ヲ一元的ニ把握統轄シ得ルガ如キ措置  
ヲ講ズ尙特ニ軍需品ノ生産並ニ供給ノ確保、重要資源ノ計畫利  
用等ノ必要並ニ敵産處理ニ關聯シ國營乃至國有民營ノ方式ヲ考  
慮ス

(三) 民生産業其ノ他ノ産業ニ付テハ國家的指導ノ下ニ企業者ヲシテ  
其ノ最高能率ヲ發揮セシムル如ク其ノ創意ノ活用ト經營ノ自主  
性ノ保持トニ務ムルト共ニ單獨恣意ノ經營ヲ抑制シ企業者ヲシ  
テ國家的要請ニ即應セシメ綜合開發計畫ノ實施ニ對シ各責任ヲ  
分擔セシムルガ如キ方式ヲ採用ス





(四) 鐵礦石、マンガン、原料炭、ボーキサイト、礬土頁岩、燐鐵等製鐵事業、輕金屬事業又ハ肥料製造業ニ不可缺ノモノニ付テハ之カ開發竝ニ採掘ノ事業ハ主目的タル事業トノ關聯ヲ顧慮シ必要ナル施策ヲ講ズ

√(五) 占領地ニ於ケル敵産ノ處理ニ付テハ國有又ハ公有ノモノハ皇國ノ國有トシ私有ノモノニ付テモ之ヲ皇國ニ歸屬セシムル如ク措置之ガ活用ヲ圖ル

國內各國ニ於ケル敵産ニ付テモ右ニ準ズ  
三 資源對策

大東亞ノ資源政策ハ大東亞資源ノ世界的地位ヲ明確ニシ、大東亞永遠ノ資源確保ヲ圖ルト共ニ新世界經濟ニ對スル大東亞ノ指導力ヲ確立スル爲概ネ左ノ施策ヲ講ズ

(一) 大東亞ノ資源ニ關シ徹底的ニ調査ヲ行フト共ニ各資源ノ特性、相關性、新應用ノ開拓及新規處理ニ關スル科學的試驗研究ヲ系

統的且綜合的ニ行ヒ各資源ノ平衡的活用ヲ圖ルト目途トシ其ノ實施上必要ナル措置ヲ強力ニ行フ

(二) 自給資源ニ付テハ大東亞産業ノ飛躍的擴大ニ即應シ資源ノ重點的且組織的調査開發ヲ行ヒ其ノ恒久的確保ヲ圖ル

(三) 不足資源ニ付テハ未開發資源ノ徹底的調査開發ニ努ムルト共ニ科學技術ノ向上ヲ圖リ資源ノ有效利用、代用品ノ積極的利用ノ措置ヲ講ジ又極力消費ノ節約、回收ノ強化ニ努ム

(四) 獨占資源ニ付テハ之ガ新規處理ノ技術ヲ拓關シ積極的ニ其ノ活用ヲ圖ルト共ニ之ガ保續ノ途ヲ講ジ新世界經濟ニ於ケル優位確保ニ資ス

昭和十七年六月

極秘

大東亞共榮國內ニ於ケル非鐵金屬生産  
擴充目標

専門委員

小村 千太郎

E.O.O. 3-3-1

大東亞共榮國內ニ於ケル非鐵金屬生産擴充目標

大東亞共榮國內ニ於ケルニツケル、鉛及銅ノ生産擴充目標ヲ左ノ如ク  
第一期及第二期ノ二期ニ分テ、其ノ實現ニ付立地、開發及企業方式、  
所要資金、原料資源、對策等ノ觀點ヨリ考察スルコト次ノ如シ  
一、生産擴充目標

ニツケル	第一期(五ヶ年)	第二期(十ヶ年)
銅	一三〇〇〇〇噸	四五〇〇〇〇噸
鉛	一五〇〇〇〇噸	四五〇〇〇〇噸
錫	二〇〇〇〇〇噸	六〇〇〇〇〇噸

ニツケル

大東亞共榮國內ニ於ケルニツケル資源ハ他種金屬ノ夫レニ比シ比  
的豊富ニシテ、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

(1) 地域別生産目標

	産額(昭和十三年)	第一期産額	第二期産額
セレベス	1	3,000 應	1,000 應
ニユーカレドニア	七五七 應	1,000 應	二五五 應
ボルネオ	一一一	1,000 應	二〇〇〇
本邦		1,000 應	三〇〇〇
其他(註一)	1	1	四五〇〇
合計	八七一 應	一三〇〇〇 應	四五〇〇〇 應

註 セレベス、比律賓産ヲテライト中ノニツケルヲ加算セルモノナリ

(2) 製煉

本邦以外ノ分ハ山許ニ於テニツケルノ第一次要ツト(品位六〇%)  
又ハスバイストシ之ヲ臺灣又ハ西貢朝鮮ニ輸送シ電氣製煉ヲ行フモノトス

(2)

(3) 所要資金

尙ラライト中ノニツケルニ就テハ前記ノ海外各地ハ孰レモ製煉  
用炭ニ乏シキヲ以テ北支又ハ四部朝鮮ニ輸送シルツベテ製出スル  
モノトス

	第一期	第二期
採掘設備		
選礦設備		
製煉設備	五千萬圓	七千萬圓
運搬設備		
電煉設備	二千萬圓	三千萬圓
合計	七千萬圓	一億圓

鉛ノ目標量生産ニ付テハ濠洲ヲ包括セシムルヲ要ス

(3)

産額 (昭和十三年)	第一期年産額		第二期年産額	
	第一	第二	第一	第二
日 本	八、三八六 應	一一、〇〇〇 應	一、五〇〇 應	一、五〇〇 應
日 本 支 洲	一、二〇〇 (本邦ノミ)	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇
日 本 支 洲	二、三五六 六四	一	二、六〇〇 〇〇	
合 計	三、二九〇 五二 應	一、三〇〇 〇〇 應	四、五〇〇 〇〇 應	

(2) 製 煉  
 ビルマ及支洲ニ於テハ原則トシテ山許ニ於テ精鉛又ハ蒸氣製煉迄ノ一貫作業ヲ行フモノトス

所費資金	第一類	第二類
ビルマ諸設備費等	五千萬圓	二千萬圓
本 邦	一千萬圓	
支 洲	破綻ナキモノト假定シ計上セズ	
合 計	六千萬圓	二千萬圓

西 銅

(1) 銅ハ前掲ノニツナル、鉛ニ比シ現在ノ査定資源ニ於テハ大東亞共榮圈ノ資源ヲ以テシテハ第一期目標タル二十萬應スラ充足スルコト困難ニシテ第二期目標タル六〇萬應ニ達スルコトハ到底不可能ナルヲ以テ其ノ對策ニ付テハ個別的竝ニ綜合的ニ劃期的ナル計畫樹立ヲ必至トスベク之ガ具體案ヲ列舉スレバ左ノ如シ

(1) 本邦及比島ニ重點ヲ置キ現在遂行中ノ銅山ニ對シ積極的増産ヲ行ハシムルト共ニ之ト併行的ニ開發ノ調査ヲ進ムルコト

(2) 内外ニ於ケル新資源ノ開發殊ニ支洲、ビルマ、比律賓、ボルネオ、ジャバ、スマトラ、マラヤ、フィリピン、インドニ於ケル積極的調査採掘ヲ行ヒ是等未知銅床ヲ開發セシムルコト

(3) 低品位銅礦ノ採掘等ニ對スル保護政策ヲ強化スルコト

(4) アルミニウム等ノ他種金屬ヲ以テ代用ヲ計ルコト

(5) 地域別生産目標

	産額(昭和十三年)	第一期年産額	第二期年産額
本邦	七〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇
比律賓	五〇八六(昭和十三年)	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇
フィリピン	三六〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
南洋	一九八六八	四〇〇〇〇	四〇〇〇〇
合計	一〇五九五四〇	一七〇〇〇〇〇	一七〇〇〇〇〇

(3) 煉

山許製煉ノ原則トスルモ比律賓ニ於テハ電氣製煉設備ヲ有セザル  
為本邦ニ於テ之ヲ行フモノトス

(4) 所費資金

内地諸設備費其他 一億五千萬圓  
比律賓 " " 一億圓  
フィリピン " " 五千萬圓  
南洋 " " 一億五千萬圓  
合計 四億五千萬圓

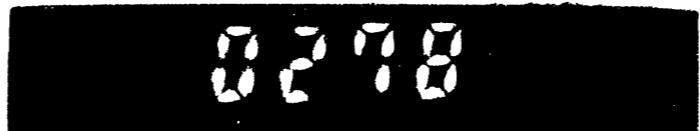
{6}

三 開發方式

- (1) 國有民營ヲ原則トシ、國策會社經營方式ヲ避クルコト
- (2) 實力及經驗ヲ有スル事業商社ヲ指定シ地域別ヲ本體トシ之ニ領導ヲ加味シテ其ノ開發ヲ擔當セシムルコト、但シ廣域ナル經營ニ涉ルヲ以テ時宜ニ依リ受命者ヲ統制スル邊海ヲ考慮スルヲ要スベシ
- (3) 開發所費資金ハ原則トシテ所費資材ト共ニ國家ニ仰グコトトシ其他動力、勞力等ノ統籌、分配ヲ圓滑ニシ生産ノ高産能率ヲ發揮セシムルタメ強力ナル綜合機關ヲ設置スルコト

以上

{7}



E0.0.0.3-3-1

極秘

昭和十七年六月

大東亞共榮圈石炭開發ニ關スル意見

大東亞建設審議會  
委員 松本健次郎

五 請發方式

- (1) 國有民營ヲ原則トシ、國策會社經營方式ヲ避ケルコト
- (2) 實力及經驗ヲ有スル華業商社ヲ指命シ地域別ヲ本體トシ之ニ繼續ヲ加味シテ其ノ開發ヲ擔當セシムルコト、但シ廣域ナル經營ニ涉ルヲ以テ時宜ニ依リ受命者ヲ統制スル邊海ヲ考慮スルヲ容スベシ
- (3) 開發所費資金ハ原則トシテ所費資材ト共ニ國家ニ仰グコトトシ其他動力、勞力等ノ統制、分配ヲ圓滑ニシ生産ノ高壓能率ヲ發揮セシムルタメ強カナル綜合機關ヲ設置スルコト

以上

印

昭和十七年六月一日

大東亞建設審議會委員

松本健次郎

大東亞共榮圈石炭開發ニ關スル意見。

一、緊急對策ト恒久對策

緊急對策ハ大東亞共榮圈内各地域ニ於ケル現有開發計畫ヲ基礎トシ、コレニ炭質、採炭能率、輸送等ノ見地ヨリ檢討ヲ加ヘ、勞務、資材、資金ヲ重點的ニ配置シテ、戰爭遂行上必要ナル急需ニ應ゼントス。

恒久對策ハ印度洋洲ヲ包含セル全地域ニ亘リ、我國ガ開發又ハ開發指導ノ任ニ當リテ、大東亞建設ニ必要ナル石炭ノ生産ヲ戦局ノ進展ニ應ジ、他産業立地計畫ノ進捗ニ伴ヒ實現セントスルニ在リ。從ツテ、コレガ計畫ニ方リテハ前項緊急對策ニ於テ決定セル計畫ヲ或ハ改訂變更ノ必要ヲ生ズ可ク、要ハ緊急對策ヲ恒久對策ニ織リ入レ

テ其ノ間調整宜シキヲ得ルヲ要ス。

二、緊急對策ノ計畫設定

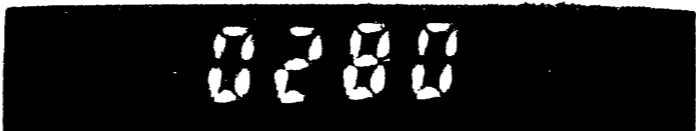
前項緊急對策ノ要旨ニ基キ各地域別増産計畫ヲ設定スルニ當リ、方針ヲ次ノ如ク定ム。(第一表参照)

- イ、内外地ノ開發ニ付テハ内外地ニ於ケル國防産業乃至精密工業ニ對シ適當量ノ供給ヲ確實ニ維持スルコトニ重點ヲ置クコト
- ロ、滿支ニ於ケル増産計畫ヲ以テ本緊急對策ノ根幹トナスコト
- ハ、南方地域ニ於テハ可及的速カニ當該地方ノ自給自足ノ確立ヲ

目標トスルコト

三、増産計畫ノ目標

緊急對策實行ノ第一期ヲ昭和十七年乃至二十一年ノ五ケ年トシ、コレヲ第二期、第三期ニ延長シテ各期末年度ニ於ケル出炭計畫ヲ見ルニ次ノ如シ。



地域	年度		
	昭和十六年度	第一期初年度 (昭和十七年度)	第一期末年度 (昭和二十一年度)
内地	七四三〇〇	七七二〇〇	九一〇〇〇
支那	二四二八二	二九三〇〇	五五〇〇〇
南方	五二四三	五七〇〇	一一三〇〇
計	一二六八二五	一三八七〇〇	一五九八〇〇
内地	七四三〇〇	七七二〇〇	一〇〇〇〇〇
支那	二四二八二	二九三〇〇	五五〇〇〇
南方	五二四三	五七〇〇	一一三〇〇
計	一二六八二五	一三八七〇〇	一五九八〇〇
内地	七四三〇〇	七七二〇〇	一〇五〇〇〇
支那	二四二八二	二九三〇〇	七〇〇〇〇
南方	五二四三	五七〇〇	一五五〇〇
計	一二六八二五	一三八七〇〇	一五九八〇〇

昭和十六年度  
三〇〇〇千噸  
昭和十七年度  
三〇〇〇千噸  
昭和二十一年度  
三〇〇〇千噸

所要技術者

前項ノ如ク緊急對策ノ計畫目標ヲ  
 第一期目標 昭和二十一年度出炭 一億九千五百五十萬噸  
 第二期目標 昭和二十六年出炭 二億五千九百八十萬噸  
 第三期目標 昭和三十一年出炭 三億二千五十萬噸  
 設定スルニ當リ、コレガ實現ニ必要ナル條件ヲ檢討スルニ加  
 昭和十六年度實數 〇〇一九八  
 昭和十七年度 〇七三一一  
 昭和十八年度 一三八八九  
 昭和十九年度 一七九八九  
 昭和二十一年度 二一六二九  
 昭和二十六年度ニ比シ、廿一年度ニ於テハ三八七〇人、卅一年度  
 於テハ一、六一〇人ノ増員ヲ要ス。





所要勞力

昭和十六年度實數 九六七五〇〇人  
 十七年度 一〇八五五〇〇人  
 十八年度 一五九一八〇〇人  
 十九年度 二二六七四〇〇人  
 二十年度 二八八九一〇〇人  
 即ち昭和十六年度ニ比シ十九年度ニ於テハ六二四三〇〇人、昭和  
 廿一年度ニ於テハ一九三〇六〇〇人ノ増員ヲ必要トス。

所要固定資産

昭和十六年度出炭實績 一、二六八二五千應  
 十九年度 一九一、五〇〇千應  
 差引増産 六四、六七五千應

右ニ要スル固定資金 一、八〇〇、〇〇〇千圓

昭和十六年度出炭實績 一、二六八二五千應  
 十九年度 三二〇、五〇〇千應

差引増産 一九三、六七五千應

右ニ要スル固定資金 六六三、五〇〇千圓

ニ、所要資材

前述ノ如ク五ヶ年一億九千萬應計並ニ十五ヶ年三億九千萬應計  
 費ヲ遂行スルタメ炭礦ニ注入スベキ主要資材總額ハ左ノ如シ

品名	五ヶ年計費ノ場合		十五ヶ年計費ノ場合	
	總量	出炭一應當 平均	總量	出炭一應當 平均
鐵	二九六八千應	三七應	一四二、三二二千	四二應
銅	四八千應	六一瓦	二四九千	七三瓦
坑木	一一九五〇〇千石	〇一五石	六七四九〇〇千石	〇二〇石

右ニ掲ゲタル主要條件ノミニツキ、コレヲ觀ルモ、石炭開發計費ニ  
 併シテ立派ヲ施ラ要スル諸計費次ノ如シ



技術者ノ養成  
 機械化ニヨル能率増進、勞務者ノ訓練及供出トコレガ食糧確保  
 鐵鋼増産  
 銅ノ代用品研究  
 坑木供給ノタメノ殖林計畫  
 電力計畫  
 燃燒及利用方法研究  
 五、輸送條件  
 前項諸條件以上ニ石炭開發計畫ニ緊切ノ關係ヲ有スルモノハ云  
 フ迄モナク輸送條件ニシテ、就中  
 汽船々腹ノ増加  
 鐵道施設ノ擴充  
 港灣並荷役設備ノ擴充  
 ハ相列ンテ緊急ニ解決ヲナサザル可ラズ。勿論其ノ適確ナル計畫

ハ産業立地ノ問題ト其ノ解決ヲ不可分ニスルモ、石炭開發ニ際シ  
 此等條件ノ充足ハ特ニ急速ナル措置ヲ爲スラ要ス。

イ、汽船船腹ノ増加  
 次ニ汽船々腹ニツキ第一期末年ニ於ケル所要量ヲ推定セン、但シ  
 汽船々腹ノ場合ハ前項諸條件ノ如ク石炭計畫ニノミコレヲ限定シ  
 テ推算スルハ妥當ナラザルヲ以テ全輸送量ノ上ヨリ觀察ヲ下スコ  
 トトス。

第一期末年（昭和廿一年）ニ於ケル國內汽船製輸送量ハ次ノ  
 如ク想定セラル  
 A、地域間汽船製輸送量 四一、五五五、千噸  
 B、地域内汽船製輸送量

支那地域内	三一六千噸
内地地域内	一八、三二〇千噸
計	六〇、一九一、千噸

右年度ニ於ケル國內全貨物ノ總汽船製輸送量ガ石炭ノ二倍ナリト



假定スレバ一億二千萬噸トナル。之ニ要スル船腹八月一・三回（年一五・六回）廻ルモノトシテ約七百七十萬噸（重量噸）ナリ。昭和十六年度末本邦汽船船腹ヲ六百四十萬噸（重量噸）トシ此ノ内産業部門ニ使用シ居ルモノ三百二十萬噸ト推測スレバ五ヶ年間ニ累計四百五十萬噸、年平均九十萬噸（總噸數ニテ六十三萬噸）ノ船腹純増加ヲ必要トス。

#### ロ、鐵道施設

既敘ノ如ク増産ノ主軸ハ滿支ニ存スルヲ以テ、之レガ輸送ニ當リテハ長距離ニ亘ル鐵道ノ建設ヲ必要トスルコト言フ俟タズ、殊ニ支那炭田開發ニ際シテハ先ヅ鐵道建設計畫ヲ樹立シ之ガ急遽ナル實施ヲ期スルノ要アリ。

#### ハ、港灣並荷役設備ノ擴充

更ニ各地域ニ於ケル港灣並荷役設備ノ擴充ハ海陸輸送連絡ヲ圓滑ニスル上ニ於テ必要ナリ。又濰太ニ於ケル冬期積出ヲ容易ナラシムル爲メノ港灣建設計畫ノ如キモ急遽實施ヲ必要トス。

### 六、産業立地計畫

石灰ハ大量貨物タルノ特性ニ鑑ミ、其ノ開發計畫ハ輸送力ニ制約セラレ、處甚ダ多シ。

從ツテ之ヲ地理的ニ云ハバ石灰生産現地ニ近ク需要ガ起ル場合ニ最モ増産ヲ容易ニス可キヤ云フ迄モナシ。故ニ産業立地計畫ヲ樹立スルニ當リテハ、石灰開發計畫ヲ爲ト考察シ決定スルヲ要ス。

乍併、石灰開發計畫目標モ他産業立地配分並ニ輸送問題ニ鑑ミ開發ノ重要場所所在ヲ考慮スルノ要アルコト勿論ナル可ク例ハバ南方地域ニ於ケル非粘結炭、佛印及山西ニ於ケル無煙炭ノ如キモ之ガ炭質ヲ考慮シ開發又ハ開發指導ニ當ルヲ必要トス。

此ノ點ニ鑑ミ政府ニ於テハ此ノ際至急産業立地ノ全體的計畫ヲ參考資料トシテ内示アラント切望ス。

七、企業方式

本開發計畫ノ完遂ヲ期スル爲メニハ大東亞全域ニ亙リ官民一体トナリテ長期ニ亙リ實施計畫ヲ整然ト確立シ計畫實現ニ要スル諸條件並ニ產業立地計畫ニツキ具體的考慮ヲ加ヘ得ルガ如キ條件ヲ考察スルヲ要ス。之ガ爲メニハ政府ニ於テハ關係各省、現地軍、滿州國政府、中華民國政府其間ノ外國政府ノ全幅的協力ヲ期待シ得ル豫特別ノ措置ヲ講ゼラレ度ク、民間ニ於テハ内地ニ於テハ石炭統制會、其他ノ地域ニ於テハ之ニ對應スル強力ナル統制機關ヲ以テ連絡運輸ヲ設ケ關係各縣指導ノ下ニ實施計畫ノ實現ニ邁進スルヲ要ス、政府ハ新ナル目的ノ爲メニ一ツノ組織ヲ考慮中ノ趣承リ得ルガ可及的遠カナル實現ヲ切望ス。

次ギニ各地域ニ於テ現狀ニ開發ニ當ルベキ企業ノ形態ハ各地域ノ實情ニ應ジ必ズシモ同一ニハ等シ難カルベキモ其要義トシテハ國家的統制ノ下ニ企業經營者ヲシテ最高能率ヲ發揮セシムル豫算計劃ヲ活用スルト同時ニ綜合的ナル開發實施計畫ニ對シ充分責任ヲ負ハシムル

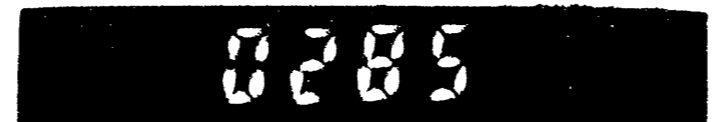
ガ如キ方式ヲ採用スルヲ要ス

八、石炭開發計畫ト鐵鋼計畫

鐵鋼計畫第一期五ヶ年後ノ生産目標ヲ鋼一千萬噸トシ此年次ニ於ケル圈内原料粉炭ノ需給ヲ豫想スルニ下ノ如シ

鋼一千萬噸生産ニ要スル原料粉炭	二三五〇〇千噸
瓦斯、コークス所要原料粉炭	七三〇〇千噸
原料炭ノ最少限度需要計	三〇八〇〇千噸
石炭一億九千萬噸中ニ豫想セラルル原料粉炭	四四七〇〇千噸
差引原料粉炭過剩	一三九〇〇千噸
依テ石炭一億九千萬噸中ニ豫想セラルル原料粉炭	四四七〇〇千噸
割合ニヨリ逆ニ原料粉炭最少限度所要量	三千八十萬噸ヲ產出スル母數ヲ計算スルニ

19,000,000千噸 × 30.800千噸 = 1,311,000千噸



原料粉炭最少限度所要量ヲ點ヨリ觀テ、鋼一千万應ニ相當  
 石炭ハ一億三千万應見當ニテ可ナリトノ推定ヲ下シ得ベシ  
 次ギニ鋼一千万應ヲ生産スル時代ノ石炭全消費量（鋼生産ニ要ス  
 石炭ヲ含ム全産業用）ヲ豫想スルニ、一九三八年ニ於ケル獨乙ノ  
 狀ハ

鋼	二、三〇〇〇千應
石炭（瀝青炭）	一、九〇〇〇〇千應
（褐炭）	一、八〇〇〇〇千應
効率五割トシ テ推算	九〇〇〇〇千應
計	二、八〇〇〇〇千應
消費割合	鋼一ニ對シ石炭一ニ

シテ商工省調査資料ニヨレバ米國ニ於テハ鋼一ニ對シ石炭一二。八  
 ヲヨリ假リニ、一。二。八倍ナル消費率ヲ採用スレバ、鋼一千万應

ニ對シ石炭一億二千八百萬應ト云フ數字トナル。  
 礦ツテ昭和十七年度ニ於ケル國內鋼材生産豫定量六五〇〇千應ニ  
 對シ石炭總生産豫定量ハ一三八〇〇〇千應ニシテ約二。一。二倍ニ相  
 當スルモ鋼材三〇。〇〇千應生産ノ場合ニ於テ其他ノ需要ガ同一ノ  
 比率ヲ以テ増加スルヤ否ヤハ充分檢討ヲ要スルノミナラズ今後ノ増  
 産炭ガ從來ノモノニ比シ品質優良ナル可キ點モ考慮ニ加ヘ得ベク、  
 從ツテ現在ノ製鐵廠對石炭總消費量ノ割合ヲ以テ將來ヲトセントス  
 ルハ妥當ナラザル可シ。  
 要ハ先ツ前述セル緊急計畫目標ノ實現ニ全カヲ傾倒スル一方國內  
 全域ニ互ル産業立地計畫ノ確立ニ伴ヒ石炭諸設備久許計畫ヲ確立シ、  
 其ノ生産額自標ヲ適正ニ決定スルニ在リ。

以上



極秘

大東亞共榮圈非鐵金屬開發計畫案

専門委員  
川島三郎

E.O.O.3 or 3-3-1 E.O.O.0

第一 開發方針

- (一) 第一期五ヶ年ニ於テハ日滿支ヲ中心トスル大東亞共榮圈ノ自給自足の國防經濟ノ確立ヲ目的トシ而テ南方ニ對シテハ大東亞戰爭完遂ニ不可缺ナル重要資源ニ付既存設備ノ復舊及ビ増産ヲ重點的ニ行ヒ併セテ末開發資源ノ調査ヲ行フベキモノトス。但シ
- (1) 第一期中ニ於ケル末開發資源ト雖モ戰爭遂行上必要ナル不足資源ニ付テハ資材、運輸其他ノ關係上困難ナル場合ニ於テモ之ヲ開發スルト同時ニ
- (2) 末開發資源中比較的容易ニ開發シ得ルモノハ第一期中ト雖モ開發スベキモノトス
- (三) 第二期十ヶ年ニ於テハ大東亞經濟建設ヲ目標トシ雄大ナル構想ニ基キ本格的開發ニ移行スベキモノトス。尙末開發資源ノ調査ニハ第一期中ヨリモ更ニ力ヲ注グベキモノトス。

- (三) 第一期中ト雖モ情勢如何ニ依リテハ全体的ニ又ハ部分的ニ第二期計畫ニ移行スベキモノトス。
  - (四) 既存設備ハ國防上又ハ産業立地上特ニ支障ナキ限り之ヲ有效ニ利用シテ重投資ヲ行ハザルヤウ注意スベシ。
  - (五) 本邦ノ鑛業ハ國防及ビ優秀技術培養ヲ爲今後南方鑛業ト調整ヲ行フ場合必要限度ニ於テ之ヲ保持スベキモノトス。
  - (六) 陸送船腹ノ節約ヲ圖ル爲現地ニ於ケル選礦、製鍊設備ヲ復舊セシメ、精鑛、マツト又ハ地金ニテ移入スコトヲスベシ。尙産業立地、統治關係、資材、燃料、動力、勞力、輸送等ヲ考慮シ將來國內適當ナル地域ニ之等設備ノ新設又ハ増設ヲ行フベキモノトス。
- 備考
- 一、本案ニ於ケル大東亞共榮圈ノ範圍ハ日、滿、支、佛印、泰、ビルマ、馬來、比島、東印度諸島(スマトラ、ジャバ、ボルネオ、セレベス等)、ニューギニア及ビニューカレドニアヲ含ム地域ト假

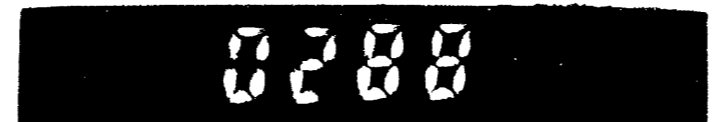
定ス。

二、濠洲及ビ印度ハ共榮圈ニ包含セザルモ吾國ノ政治的經濟的壓力ヲ加フヤコトニ依リテ容易ニ吾國ノ欲スル資源的要求ニ協力セシムル勢力圈ヲ形成スルモノト假定ス。

三、本生産計畫完遂ニ要スル

- 資 金
- 勞 力
- 電 力
- 資 材
- 輸 送 量

等ニ關シテハ調査ニ長時間日ヲ要スルヲ以テ別途ニ研究スルコトトス。



第二 開發計畫

第一期(五ヶ年)目標

資源名	五ヶ年計畫數量	備考
一、銅	二〇〇〇〇〇〇 噸	金屬トシテ
二、鉛	一五〇〇〇〇〇〇 "	"
三、亜鉛	一五〇〇〇〇〇〇 "	"
四、錫	六〇〇〇〇〇〇 "	"
五、アンチモン	六〇〇〇〇〇〇 "	"
六、ニッケル	一五〇〇〇〇〇〇 "	"
七、コバルト	一〇〇〇〇〇〇〇 "	"
八、タングステン	一五〇〇〇〇〇〇 "	MoS <sub>2</sub> 鑛トシテ
九、クロム	二〇〇〇〇〇〇〇〇 "	クロム 四〇%トシテ
一〇、マンガン	六〇〇〇〇〇〇〇〇 "	マンガン 四〇%鑛トシテ
一一、モリブデン	三〇〇〇〇〇〇〇 "	モリブデン 八〇%鑛トシテ
一二、水銀	三〇〇〇〇〇〇 "	金屬トシテ

銅

戰前國內銅產額八、〇〇〇 噸及圈内其他地域產額一七〇〇〇 噸合計  
 九八〇〇〇 噸ハ第一期目標二〇〇〇〇 噸ニ比シ擴充所要量ハ一〇  
 三〇〇〇 噸ナルガ之ニ對シ國內生産ヲ從來ノ一・四倍一・三〇〇〇  
 噸比律產出約三倍三三〇〇〇 噸ニ増産ヲ豫定スルモ第一期目標ニ  
 對シ尙三七〇〇〇 噸不足ス  
 本不足分ニ對シアルミニウム及ビ亜鉛等ニヨル代用策ヲ講ズベキモノトス

産地	戰前 産額	増産 配分額	合計	主産品	處理法	現力鑛	新規要 擴充力	現力鑛	新規要 擴充力
内地	八一	三二	一一三	電氣銅	熔鑛又ハ 反射爐製 銅電解精 製	八一	三二	一〇〇	一三五
朝鮮				精鑛	内地電解 精製				一三五
滿洲	三	三	六	電氣銅	熔鑛電解 精製	三	三	四	六
比律賓	一一	二二	三三	粗鑛	内地電解 精製	一一	二二	二	六
				銅鑛	又ハ吹製 銅鑛				六





計	佛印	比ル
九九	五	三三
五一		三一
一五〇	五	五四
	精鑛	精鑛
	内地へ賣鑛	内地へ賣鑛
九九	五	三三
五一	〇	三一
一〇〇	五	三一
四九	五	三一
一五五	〇	〇
不要	不要	不要

本資源ハ將來世界的需給ヲ支配スベキモノニシテ之ニ備ヘ現生産設備ノ保全、労働者ノ生活保障並敵性國ヘノ流出防止ヲ期ス、共ニ泰、佛印經濟協定ニ基キ必ク最低生産量ヲ維持セシム

(單位:〇〇〇噸)

産地	内地	支那	比ル
産額	七	三	三
増産	〇	〇	〇
分配額	〇	〇	〇
合計	二	〇	三
主生産区	電解錫		
處	反射爐	電解製錫	ベナン(賣鑛)
法	電解製錫	電解製錫	ベナン(賣鑛)
現鑛	三	三	三
新規要	不要	不要	不要
擴充要	不要	不要	不要
現鑛	三	三	三
新規要	不要	不要	不要
擴充要	不要	不要	不要
現鑛	三	三	三
新規要	不要	不要	不要
擴充要	不要	不要	不要

佛	泰	馬	蘭	計
一	三	六	三	一三〇
〇	五	三	七	六〇
精鑛	精鑛	精鑛	精鑛	
内地へ賣鑛	内地其他へ	乾式製鍊	式製鍊	
一	二	六	三	二六
不要	不要	不要	不要	不要
一	二	六	三	二六
不要	不要	不要	不要	不要
一	二	六	三	二六
不要	不要	不要	不要	不要
一	二	六	三	二六
不要	不要	不要	不要	不要

五、印 減産

錫、同様圈内特産ニテ支那ニ於ケル産地湖南南廣地方觀望進メバ

五ヶ年計畫遂行支障ナシ

(單位:〇〇〇噸)

支那	計
四	四
三	六
六	六
金屬アノ	熔出法其他
四	四
二	二
六	六
不要	不要
一〇	一〇
製	製



六 ニッケル

主トシテセレベス、ビルマ及ビニューカレドニアヲ對象トスルモノ  
ニシテ各地戦前生産量確保ニヨリ計畫數量一萬五千噸遂行可能ナリ

(單位(一〇〇〇噸))

産地	戦前産額	増産配分額	合計	主生産品	処理法	現採能力	新規要擴充採能力	現選能力	新規要擴充選設備	現製能力	新規要擴充製錬能力
内地	〇	〇	〇	精	鑛熔鑛爐製錬	〇	〇	〇	〇	〇	三
朝鮮	〇	〇	〇	精	鑛内地へ賣鑛	〇	〇	〇	〇	〇	五
ビルマ	一	〇	一	砒	内地へ賣鑛	一	一	一	一	一	不要
カレドニア	七	〇	七	砒	内地へ賣鑛	七	不要	手選	不要	〇	不要
計	一五	〇	一五	砒	内地へ賣鑛	一六	一	一	一	七	八

七 コバルト

ビルマ及ビニューカレドニア戦前実績合計五〇〇噸ニ過ギズ計畫數量一〇〇〇噸ニ對シテ増産ヲ必要トス、尙朝鮮鑛ノ増産並ニ亞鉛銅鑛滓中ノコバルト回收奨勵ニヨリ増産ヲ計ルベシ(單位(一〇〇〇噸))

産地	戦前産額	増産配分額	合計	主生産品	処理法	現採能力	新規要擴充採能力	現選能力	新規要擴充選設備	現製能力	新規要擴充製錬能力
内地	〇	〇	〇	ニッケルコバルト	内地へ送鑛	〇	〇	〇	〇	一〇	不要
ビルマ	〇・三	〇・二	〇・四	ニッケルコバルト	内地へ送鑛	〇・二	〇・二	〇・二	〇・二	〇	不要
カレドニア	〇・三	〇・三	〇・六	コバルト	内地へ送鑛	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇	不要
計	〇・五	〇・五	一・〇			〇・五	〇・五	〇・五	〇・五	一・〇	不要

ハダングステン

内地及び朝鮮産出四〇〇〇噸ニ過ギザルモ支那産地ノ裁定ニヨリ第一期計畫量ヲ超過スベシ

(單位 一、〇〇〇噸)

計	ビルマ	馬來	泰	佛印	支那	朝鮮	内地	産地
二二〇	四三	一〇	〇	〇	一〇	三〇	一〇	戰前産額
△七〇	二一	〇	〇	△九六	〇	〇	〇	増産配分額
二五〇	六四	一五	〇	二四	三〇	一〇	〇	合計主生産品
	精鑛	精鑛	精鑛	精鑛	精鑛	其ノ他	フエロタン グマテン	處理法
	内地へ賣鑛	内地へ賣鑛	内地へ賣鑛	内地へ賣鑛	内地へ賣鑛	其ノ他	製電氣 鍊爐	現採鑛能力
二八七	一一〇	一〇	〇	〇	一二〇	四〇		新規要鑛能力
不要	不要	不要	不要	不要	不要	不要		現選鑛能力
二八七	一一〇	一〇	〇	〇	一二〇	四〇		新規要鑛能力
不要	不要	不要	不要	不要	不要	不要		現選鑛能力
八	〇	〇	〇	〇	〇	八		現製鍊能力
七	不要	不要	不要	不要	不要	七		新製鍊能力

クルク

△印 非占領地帯産出量減小

比律賓ニ於クルク産出状況ハ近年極メテ良好ニシテ同島産ノミニテモ充分本計畫實行可能ナルベシ

(單位 一、〇〇〇噸)

計	比律賓	内地	産地
二二〇	一〇	六〇	戰前産額
△二〇	〇	〇	増産配分額
二四〇	一〇	六〇	合計主生産品
	鑛石	其ノ他	處理法
		電氣鍊	現採鑛能力
二二〇	一〇	六〇	新製鍊能力
不要	不要	不要	現選鑛能力
二二〇	一〇	六〇	新製鍊能力
不要	不要	不要	現選鑛能力
六〇	〇	六〇	現製鍊能力
一四〇	〇	六〇	新製鍊能力

一〇マンガン

本計畫遂行上主タル産地内地ヲ初メトシ比律賓、馬來等各地ニテ極力増産スルモ尙第一期  
目標數量ニ對シ一五〇〇〇〇噸不足ス。本不足分ハ印度滿洲年産一〇〇万噸ノ内ヨリ適宜  
獲得ノ方策ヲ講ズベキモノトス。

(單位 一〇〇〇〇噸)

産地	戰前 産額	増産 額配分	合計	主生産品	處理法	現採 力	新規 採力	現選 力	新規 選力	現製 力	新規 製力
内地	一六〇	四〇	二〇〇	フェロマンガ ン 其他	電氣爐製 其他	一六〇	四〇	一六〇	四〇	三〇〇	三〇〇
佛印	二	三	五	石	賣	二	三	二	三	〇	〇
比律賓	五〇	七五	一二五	石	賣	五〇	七五	五〇	七五	〇	〇
馬來	三五	五〇	八五	石	賣	三五	五〇	三五	五〇	〇	〇
蘭	一一	一六	二七	石	賣	一一	一六	一一	一六	〇	〇
支那	二	六	八			二	六	二	六	〇	〇
計	二六〇	一九〇	四五〇			一六〇	二四〇	二六〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇

14

一、モリブデン

近年内地、朝鮮及滿洲ヲ合シ産出壹千噸弱ニツキ特ニ本品ノ増産ヲ計ルト共ニニツケル、  
夕ローム又ハオランダスデンニヨル代用方策研究ヲ要スベシ

(單位 噸)

産地	戰前 産額	増産 額配分	合計	主生産品	處理法	現採 力	新規 採力	現選 力	新規 選力	現製 力	新規 製力
内地	四〇	二〇〇	二四〇	フェロモリ ブデン 其他	電氣爐製 其他	五〇	一九〇	五〇	一九〇	一〇〇〇	一〇〇〇
朝鮮	三〇〇	三六〇	六六〇	精	内地へ賣	四〇〇	二六〇	四〇〇	二六〇	〇	不要
滿洲	五〇〇	五〇〇	一〇〇〇	精	内地へ賣	六〇〇	四〇〇	六〇〇	四〇〇	〇	不要
佛印	二〇	八〇	一〇〇	精	内地へ賣	二〇	八〇	二〇	八〇	〇	不要
計	八〇〇	一、一四〇	二、〇〇〇			一、〇七〇	九三〇	一、〇七〇	九三〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

但シ、モリブデン産一、〇〇〇噸ノトシテノ數量ヲ示ス



一、水銀

水銀ハ大東亞共榮圈内鐵礦産物ニシテ目標ニ〇〇〇噸ノ計畫遂行至難ニテ不足分六〇〇噸ハ將來スベイン及ビイタリヨリ適當ナル方法ヲ以テ獲得策ヲ講ズル要アルベシ、  
 亦ルネオ、並支那ニ於ケル本資源開發増産ヲ特ニ期待ス  
 (單位 噸)

計	支那	滿洲	内地	産地
戦前産額	七〇		一五〇	
増産配分額	四三〇	一〇〇	一五〇	
合計	五〇〇	一〇〇	三〇〇	
主生産品	精鑛	精鑛	精鑛	蒸發製鍊
處理法	内地賣鑛	内地賣鑛	内地賣鑛	其他
現採鑛力	七〇	〇	一五〇	
新規要擴充採鑛能力	四三〇	一〇〇	一五〇	
現選鑛力	七〇	〇	一五〇	
新規要擴充選鑛能力	四三〇	一〇〇	一五〇	
現精鍊能力			五〇〇	
新規要擴充製鍊能力	不要	不要	一五〇〇	

第二期(十五ヶ年)目標

資源名	十五ヶ年計数量	備考
銅	六〇〇、〇〇〇 噸	金屬トシテ
鉛	四五〇、〇〇〇 "	"
錫	四五〇、〇〇〇 "	"
亜鉛	四五〇、〇〇〇 "	"
四錫	一一〇、〇〇〇 "	"
五アンスチオン	一一、〇〇〇 "	"
六ニツケル	四五、〇〇〇 "	"
七コバルト	二、〇〇〇 "	"
八マンガン	三〇、〇〇〇 "	W <sub>5</sub> 鑛トシテ
九クローム	六〇〇、〇〇〇 "	クロム四〇%鑛トシテ
十マンガン	一八〇〇、〇〇〇 "	マンガン四〇%鑛トシテ
十一リブン	四、〇〇〇 "	リブン八〇%鑛トシテ



古水 銀 三、〇〇〇 金屬トシテ

第一期計畫ノ成果ニ鑑ミ益々有望ナルモノハ勿論、國內外ニ亘リ貧  
 礦化ノ爲採算不能ノ鑛山ト雖モ極力其生産ノ維持擴大ニ努ムル必要ア  
 リ。然シ從來稼業ノ鑛山ニ於テハ例ヘバ比律賓ノ如キ新興鑛産地ノ他  
 ハ大ナル期待ヲ掛ケラレズ。

本計畫ノ特異性トスル處ハ(他ノ各金屬ニ就テモ大体同様)廣ク大  
 東亞國內ニ於ケル未開發資源ノ積極的開發ニ在リ。

從來ノ調査ニ依リ少クトモ資源ノ存在ヲ確認セラル、モノノミニテ  
 モ相當多數ノ鑛山アリ。更ニ第一期計畫遂行中ノ期間ニ於テ調査或ハ  
 探鑛ノ結果新タニ發見セラル、未知鑛床ヲ加フレバ相當ノ希望アリ。  
 然シ未知大鑛床ノ發見セラレザル限り、技術的見地ヨリ見テ過大ナル  
 増産期待ハ不可能ナリ。

左表ハ從來ノ實績ヲ有スル産銅地ノ増産ヲ進ムルト共ニ前記ノ特異  
 性ニ立脚シテ未開發ナル各地ヨリノ新ナル産銅地ノ期待ヲ十五年後  
 ノ生産高ヲ配分セラルモシナリ。然シ目標トスル計畫數量ノ六十萬噸ヲ  
 所謂大東亞國內ニシテ求ムルニテハ恐ラク困難ニシテ不足分約三十  
 四萬八千噸ニ及ビ更ニ印度及濠洲ノ増産ヲ加ワルモ尙十七萬三千噸ノ  
 不足ヲ告グル次第ナレバ本資源ニ關スル限り代用品ノ探究ニ待ツト  
 口大ナルモナリトス。

生産地	戰前生産高(噸)	十五年後生産高(噸)
内地	八一〇〇〇	一六〇〇〇
朝鮮	三〇〇〇	一五〇〇
滿洲	一〇〇〇	五〇〇
支那	一〇〇〇	五〇〇
比律	一〇〇〇	五〇〇
佛印	一〇〇〇	五〇〇





比 律 賓	佛 印	泰 甸	緬 甸	馬 來	暹 羅	ス マ ト ラ	シ ャ ン パ	ヒ ャ ン ディ ア	小 ス シ ン	合 計	生 産 目 標	不 足
一、〇〇〇	五、〇〇〇	七六、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	三、二九、〇〇〇	四、五〇、〇〇〇	一、三二、〇〇〇

22

三 亞 鉛

緬甸ノ増産ニ最大ノ期待ヲ有スルモノナレド、滿洲、支那、佛印、泰等相當ノ結果ヲ豫想シ得ベク、未開發方面トシテヒュールギヤノ如キモ或ハ案外ナル好成績ヲ得ルヤモ知レズ。

然シ大東亞圈内廣シト雖、我國内ノ産額ヲ第一トシ内地ノ増産ニ重點ヲ置ク必要アリ。外ニ大東亞全面ニ亘リテ生産可能ノ豫想ヲ摘出スレバ左表ノ如シ。但シ之等全地方ヲ合計スルモ二十六萬九千噸ニ過ギズ目標ノ四十五萬噸ニ對シテハ約十八萬噸ノ不足ヲ生ジ濠洲ヨリノ獲得ヲ豫定スルモ尙可ナリノ不足ヲ管グルコトトナルヘキニ付亞鉛増産ニハ特ニ一役ノ努力ヲ要ス。

生 産 地	戰前生産高(噸)	十五年度生産高(噸)
内 地	五八〇〇〇	一〇五〇〇〇
朝 鮮	三〇〇〇	一五〇〇〇
滿 洲		

23

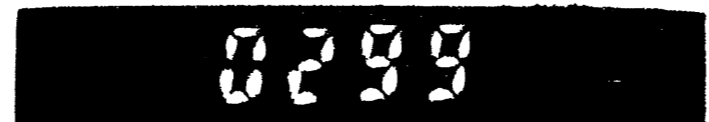


支那	北律賓	佛印	泰	緬甸	スマトラ	ジャバ	ニューギニア	合計	生産目標	不足
一五〇〇〇	三〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇	一〇〇〇〇	三〇〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇〇	二六九〇〇	四五〇〇〇	一八一〇〇〇
		五〇〇〇		三三〇〇〇				九九〇〇〇		

四錫  
左表ニ示ス如ク本計畫數量ノ生産實行容易ナルモノトス  
24

内地	支那	佛印	泰	緬甸	馬來	蘭印	合計	生産目標	生産地
二〇〇〇	七〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	三三〇〇〇	一三〇〇〇〇		戰前生産高(應)
二〇〇〇	七〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	三三〇〇〇	一三〇〇〇〇		十五年後生産高(應)

五アンゲモン  
支那ノアンゲモンヲ確保ニヨリ其ノ豊富ナル資源ニ徴シ計畫實行  
容易ナリトス  
25



生産地	戦前生産高(應)	十五年後生産高(應)
内地	三〇〇〇	一〇〇〇〇
支那	四〇〇〇	一〇〇〇〇
合計	四〇〇〇	二〇〇〇〇
生産目標		一二〇〇〇

六、ニッケル

ニッケルニ關シテハ第一期計畫ト同様緬甸、セレベス、ニューカレドニアヲ對象トシテ増産スル以外ニ良法ナク産地ニ對スル目標ハ明瞭ナレド、主産地タルニューカレドニア及セレベスノ鑛石ハ銻ニツケル鑛ニシテ緬甸ハ砒ニツケル鑛ヲ主トス。又内地或ハ朝鮮ニ産スル硫化鑛其他ヲモ考慮ニ入ルレバ夫々特異ナル處理階梯ヲ要シ之等ニツケル鑛ノ開發ニ關聯シテ優秀ナル鑛鑛設備ノ擴張或ハ新設ニ對シ國家的見地ヨリ適切ナル方策ヲ講ズルヲ要ス。

生産地	戦前生産高(應)	十五年後生産高(應)
内地	一〇〇〇	一〇〇〇
緬甸	九〇〇	四〇〇〇
セレベス	六八〇〇	一〇〇〇〇
ニューカレドニア	七五〇〇	三〇〇〇〇
合計	一五〇〇〇	四五〇〇〇
生産目標		四五〇〇〇

七、コバルト

左表ノ如ク緬甸及ニューカレドニアヲ主トシニッケルニ關聯シテ其ノ増産ヲ期待シ得ルモノナリ



生産目標	合計	ミエーカレニア	緬甸	内地	生産地
	500	300	200		戦前生産高(應)
	11000	800	800	400	十五年後生産高(應)

28

ハダングスラン  
 從來ノ實績ヲ保持スルト共ニ新興ノ緬甸、泰及馬來等ヲ考慮ニ入レ  
 目標數量迄増産セントス。

生産目標	合計	馬來	緬甸	泰	佛	支那	朝鮮	内地	生産地
	21000	1000	4000	2000	5000	10000		30000	戦前生産高(應)
	30000	2000	10000	2000	5000	10000		30000	十五年後生産高(應)

29



九夕ローム

第一期計畫ノ如ク内地及比律賓特ニ後者ヲ主トシ二十五萬應ニ増産ノ豫定トス。未開發地域トシテハボルネオニ重點ヲ置クモノトシ、ニューギニア、ニューカレドニア等ニ於ケル夕ローム開發ヲ期待スルモノナリ。  
夕ロームニ關スル本計畫案ハ左表ニ示ス如ク合計六十万應ニ達スル見込ナレド多量ノ未開發部分ノ想定ヲ包含シ之レガ實行ニハ多大ノ努力ヲ要スルモノトス。

生産地	戦前生産高(應)	十五年後生産高(應)
内地	六〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇
比律賓	一五〇〇〇〇	二五〇〇〇〇
ボルネオ	一〇〇〇〇〇	六〇〇〇〇〇
合計	二、一〇〇、〇〇〇	九、六〇〇、〇〇〇

生産目標	合計
チモール	四、〇〇〇
セレベス	二〇、〇〇〇
ニューカレドニア	六〇、〇〇〇
ニューギニア	六〇、〇〇〇
合計	一四〇、〇〇〇

一〇マンガシ  
本計畫ノ特徴ハ比律賓ノ大増産ト馬來ニ期待ヲ掛ケ且ツ支那ニ於ケル未開發鑽石ノ利用ヲ示唆セルモノニシテ尙ジャバ、スマトラ、泰等ニモ増産ノ必要ヲ分擔セシメントセルモノナリ。  
然シ左表ニ示ス如ク各地方合計ノ生産高豫想ハ漸ク八十萬應程度ニ過ギズ目標ノ百八十萬應ニハ相距ルコト遠ク不足分ハ印度ヨリ獲得ノ豫定ナリ。



不 足	生 産 目 標	合 計	マ ラ バ ス	ス マ ト ラ	馬 來	泰 印	佛 律	比 賓	支 那	内 地	生 産 地	生産高(噸)	
												戦前	十五年後
		二六〇〇〇		一一〇〇〇	三五〇〇〇		二〇〇〇〇	五〇〇〇〇	二〇〇〇〇	一六〇〇〇		一六〇〇〇	二〇〇〇〇
		八〇〇〇		三〇〇〇		一〇〇〇		三〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇		一〇〇〇	二〇〇〇

32

一 マモリブデン  
 不足分ハ印度ヨリ獲得ノ見込  
 第一期計畫ト同様内地、朝鮮及滿洲ヲ主トシ、比律賓及佛印等ヲモ  
 包含シタルモノナレド所期ノ計畫數量ニ達スルニハ大ナル努力ヲ要ス

生 産 目 標	合 計	ス マ ト ラ	佛 印	比 賓	滿 洲	朝 鮮	内 地	生産高(噸)	
								戦前	十五年後
	八六〇		二〇〇	五〇〇	三〇〇	四〇〇		一六〇〇	二〇〇〇
	四〇〇		一〇〇	五〇〇	一〇〇	五〇〇		一〇〇〇	二〇〇〇



一、水銀

左表ハ水銀ノ生産ニ關スル各地域ニ對スル配分數量ヲ示セルモノナリ  
第一期計畫ニ於テ指摘シタル如ク從來ノ稼業狀況ニ於テハ計畫數量ニ  
達スルコトハ多大ノ困難アリ、不足ヲ西班牙及伊太利ヨリ獲得スルモ  
ノトス。コノ際特ニ増産奨励方策ヲ講シ各地ノ未開發鑛山ヲ極力開發  
シ廣ク大東亞ニ求メテコノ重要ナル不足資源ノ生産ヲ確保スベキモノ  
トス。

生産地	戰前生産高(噸)	十五年後生産高(噸)
内地	150	450
朝鮮	70	100
滿洲		200
支那		100
佛島		100
暹羅		600
合計		1350
生産目標		3000

第三 地下資源ノ調査ニ關スル事項

大東亞共榮圈內ニ於テハ地下資源ノ急速且大巾ノ増産確保ヲ要スル次第ナルガ之レガ目的達成ニハ現在稼行中ノ鑛物増産ニ依ル。同時ニ未開發資源ノ調査ニ期待スル處大ナルモノアリ、殊ニ非鐵金屬ノ如ク大部分急激ナル増産ヲ目標トセルモノニ於テハ特ニ調査ノ點ヲ重要視セザルベカラズ仍テ左ニ之ガ調査ノ上ノ重要事項ニ付概説セントス。

(一) 調査ハ重點主義ニヨルベキモ其實情ニヨリ緩急適宜鹽梅スベキモノトス。即

- (1) 鑛種的ニハ吾國ニ最モ必要ノモノヲ先ニシ、以下適當ニ其順位ヲ考慮シ調査スベキモノナリ
- (2) 立地的ニハ出來ル丈諸設備ニ近キ地方ノ調査ヲ先ニシ、不便ナル所ハ漸次後廻シトスベキモ之レハ發見ノ難易トモ睨ミ合テ考慮スベキモノナリ
- (3) 量的ニハ大鑛山ノ地帶カ大勲ノ發見ノ可能性大ナルヲ以テソノ附近ノ探鑛ニ主力ヲ注グ事又小鑛床ノ附近及ソノ隣接ノ類似セル地



質ノ地帯ハ之レニ次グ、尙何レノ場合モ平行脈ヲ豫想シテ盾入探  
鑽ノ事、  
(二) 鑽床發見ノチャンスノ點ヨリ云ヘバ比較的調査行届キ居ラザル地  
方即チ未ダ充分ナル地質圖作成セラレ居ラザル地方ヲ先ニシ然ラ  
ザル地方地方ヲ后ニス

(三) 能率主義ノ事

- (1) 調査者ヲ厳選スルコトヲ要ス
- (2) 鑽種別ニ調査隊ヲ編成スルヨリモ區域別トスルヲ可トス。一技師  
ニシテ數種ノ鑽物ニ精通セルニ拘ラズ鑽種別ニ編成サレ居ル爲メ  
折角調査ノ序アリ乍ラ拱手シテソレヲ見ズニ退去シタル例ナシト  
セズ

(4) 調査團ノ組織ニ付テ寄合世帯ヲ排ス、

(三) 技術指導者ノ選定

- (1) 調査又ハ探鑽ハ優秀ナル技術者ノ指導ヲ第一トス。
- (2) 指導者ハ技術的ニ充分實地ノ訓練ヲ經タルモノナル事ヲ要ス

(4) 技術者ニハ熱意ト創意アルヲ要ス、場合ニヨリテハ調査上往々生  
命ノ危険ヲ伴フ事アルモ之ヲ省ズ敢行スル者タル事ヲ要ス

(二) 著シキ失敗ノ經驗アル技術者ハ第一線ニ立タルザル事ヲ望ム

(四) 物理探鑽利用ノ事

物理探鑽モ多方面ニ利用サレ其機關モアリ、新鑽体ノ發見ヲ企テラ  
レ、既ニ其成功ヲ傳ヘタルモノアルモ實際上ハ尙釋然タラザルモノ  
アリ、(1) トプハ立派ニ出ルガ有力ナ鑽体發見ニ至ラズ、仍テ其ノ  
利用ニ付テハ慎重研究ノ要アリ、

(五) 文獻ノ蒐集

海外地質鑽床ニ關スル文獻ハ近來良書ノ翻譯モアリ大イニ便利ヲ感  
ゼル所ナルガ尙尙ラシク語其ノ他ノ雜誌、報告書圖類等ニシテ容易  
ニ入手出來ズ或ハ入手出來タトシテモ語學ノ關係上翻譯シ難キモノ  
アリ、依テ重要ノモノヲ選定シ其ノ邦譯機關ヲ設置又ハ既設ノ機關  
ヲ利用シ、ソレ等ヲ關係者ニ配布シ探鑽調査等ノ便ニ供シ度(現地  
ノ役所等ニ特種ノモノ無キヤ取調ノ事)



第四 企業形態

東亞共榮圈內ニ於ケル企業形態ニ關シテハ一般的ニハ綜合的生產計畫ノ樹立、需給ノ統制、收益ノ國家歸屬等ノ觀點ヨリ資源及ビ設備ノ國有、國策會社ニ依ル經營等ノ形態ヲ適當トスル場合モ甚ダ多カルベシト考ヘラル、モ本案ニ於テ取扱フ非鐵金屬ノ多クハ共榮圈內ニ於ケル生産頗ル寡少ニシテ將來特ニ南方地域ニ於テ急速ニシテ且ツ多大ナル増産ヲ完遂スルニ非ラザレバ其ノ供給目標ニ到達スルコト能ハズ、而テ地下資源ノ増産ノ如キ事業ニ於テハ企業者ノ技術的創意ト企業ニ對スル熱意ト努力トヲ最高度ニ發揮セシムルガ如キ企業形態ヲ採用スル事ヲ可トス